

令和3年度

研究紀要

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けた授業づくり



仙台市中学校教育研究会 音楽研究会

令和3年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会紀要目次

1. 発刊にあたって	2
2. 令和3年度事業計画	3
3. 音楽研究会 研究実践報告（市教研事務局提出文書）	4
4. 研究会	
(1) 第1定例会要項	6
(2) 第2定例会要項	7
(3) 第3定例会要項	8
(4) 第3定例会<授業研究会>	
・歌唱 「声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう」	9
仙台市立秋保中学校 教諭 伊藤 結香	
・鑑賞 「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう」	15
仙台市立田子中学校 教諭 高野 菜々子	
・授業検討会内容（歌唱）	24
・授業検討会内容（鑑賞）	27
5. 第73回仙台市小中高児童生徒作詞・作曲コンクール結果	29
6. 各学校実践記録	30

この「令和3年度 音楽研究会紀要」に掲載する全ての内容は、個人情報保護法に基づき「第三者への公開・開示や不当な目的利用、複写及び複製」を禁じます。

発刊にあたって

仙台市中学校教育研究会
音楽研究会長 吉田 知彦

仙台市中学校教育研究会 音楽研究会では、平成 30 年度より研究テーマを『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり』として研究に取り組み、今年で 4 年目となります。平成 30 年度は現行の学習指導要領が前年に告示され、中学校教育を通じて育成すべき資質・能力として

- ①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
- ②「知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

という 3 つの柱が示された時期であります。中学校の音楽科においては、これまでの学習指導の成果と課題を踏まえつつ、改訂にあたっての基本的な考え方として

- ・感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図る。

の 2 点が挙げられました。仙中音研では平成 29 年度まで追求してきた「感性を育む」こと、を現行の学習指導要領の土台として働かせながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいこうとしてこの研究テーマの下、研究をスタートさせました。

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、特に音楽科では器楽や歌唱の授業において様々な制約を受けながら授業を進めたり、行事を行ったりすることが求められました。その様ななかであっても、校内合唱コンクールは市内のほぼ全ての中学校において実施され、吹奏楽や合唱のコンクールにも多くの学校が参加したことは、裏を返せばそれに携わる先生方の知恵と努力の結晶であったとも言えます。仙中音研では、今年度は第 3 回定例会において、2 年振りに先生方が集まって授業研究を行うことができました。秋保中学校の伊藤結香先生が「声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう」、田子中学校の高野菜々子先生には「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう」という題材でそれぞれ授業を提供していただき、会員全員で授業研究会を持つ事でできました。お二人の先生方の真摯な取り組みとそれを支えて下さった歌唱部会、鑑賞部会の先生方、研究部をとりまとめてくれた煙山先生、指導助言をいただいた岩倉一治校長先生と日下尚子指導主事に深く感謝いたします。当日の会場では、先生方が楽しそうに近況を話し合い、授業を食い入るように参観し、生き生きとグループ討議をしている姿が印象的でした。音楽科の先生方が集まって授業の在り方について討議すること、その意義について改めて感じる事のできた会となりました。また、今年度の研究は、個人で取り組む個人研究と定例会の二本立てで行いましたが、研究のまとめを HP 上で行う事といたしました。定例会での資料や会員の先生方の取り組みを HP 上で共有する事によって、これまで以上に先生方の日頃の指導に役立てていこうと考えました。仙台市教育センターの HP より右下の仙台市各教科研究会より音楽科研究会に入っていただければ研究紀要がご覧いただけようになりますのでどうぞ活用下さい。

最後になりますが、音楽研究会の先生方のご協力、とりわけ副会長と常任幹事の先生方のご尽力により、今年度の仙中音研の活動が大変実りあるものにできた事に深く感謝申し上げます。音研のますますの発展と会員の先生方のより一層のご活躍をお祈りして、発刊にあたっての言葉といたします。

令和3年度 仙台市中学校教育研究会音楽研究会事業計画

月	日	曜	仙中音研・教育委員会・教育センター	共催事業・宮連中・宮音協・NHK 他
5	13	火	第1回定例会（市教育センター） 第1回幹事会（市教育センター）	
7				音楽実技講習会 内容：NHK 音楽コンクール課題曲講習
			中学校新教育課程説明会（市教育センター）	
8	18	水	第2回幹事会（トークネットホール仙台）	
	21	土		第52回宮城県音楽教育研修会 第87回NHK全国学校音楽コンクール 宮城県コンクール（多賀城市民会館）
9	16	木	第2回定例会（市教育センター）14:30～ 内容：「学習評価の実際」 講師：河合紳和 教科調査官 ※センターの音楽科研修と共催。教科研究会 が中止となっても、センター研修としては 実施される可能性あり。センターのオンラ イン申込に一ヶ月前までに各自で申し込 む。評価について調査官から話をうかがえ る貴重な機会なので、参加しましょう。	
	18	土		第87回NHK全国学校音楽コンクール 東北ブロックコンクール(名取市文化会館)
10	20	水	第74回仙台市中学校音楽発表会（奇数校） （仙台市民会館 大ホール）	
11	4	木	第3回定例会 内容：授業研究会 14:00～ 会場：田子中学校（高野菜々子先生） 秋保中学校（伊藤結香先生）	
	12	金	仙台市作曲コンクール（自校開催）	
	16	火	仙台市作曲コンクール審査会 （市教育センター）	
	19	金		第56回宮城県音楽教育研究大会―大河原地 区大会（えぞこホール）
12	3	金		宮城県作曲コンクール本選会 （仙台市教育センター）
2	16	水		第72回作詞・作曲コンクール表彰式 （常盤末学園シェトラウスホール）
	17	木	第3回幹事会（上杉山中学校）	

音楽研究会

事務局 仙台市立中山中学校

電 話 278-8833

1 研究主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

2 役員組織

会 長 吉田 知彦（仙台市立上杉山中学校校長）

副会長 森 和子（仙台市立高森中学校校長）

岩倉 一治（仙台市立南中山中学校校長）

小野寺 淳（仙台市立鶴が丘中学校教頭）

参 与 寺田 潤（仙台市教育局学校教育部参事）

日下 尚子（仙台市教育局教育人事部教育センター主任指導主事）

幹事長 高橋和歌子（仙台市立中山中学校教諭）

3 今年度の研究活動の経過

◆令和3年5月13日（火） 第1回幹事会（市教育センター）

（1）令和3年度の事業、予算について

（2）定例会の持ち方について

◆~~令和3年5月13日（火）~~ 第1回定例会（~~市教育センター~~）〈C4thにて報告〉

（1）令和2年度事業報告と決算報告

（2）令和3年度事業計画と予算案

（3）令和3年度音楽部会組織の改編

◆8月18日（水） 第2回幹事会（トークネットホール仙台）

（1）第2回・第3回定例会・研修会について

（2）各部から事業の進捗状況報告

（3）研 修 「次年度の研究会が目指すもの」

◆8月21日（土）

第88回NHK全国学校音楽コンクール宮城県コンクール（多賀城市民会館）

<金賞> 五橋中 長町中

<銀賞> 八軒中

<銅賞> 第一中 台原中 富沢中

◆9月16日（木） 第2回定例会・研修会（仙台市教育センター／オンライン研修）

「新学習指導要領における評価の具体的な進め方」

講師 河合紳和先生（教科調査官）

◆9月17日（金）

第73回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール

作詞の部審査会（トークネットホール仙台）

<特選> 聖ウルスラ学院英智中 1名 住吉台中 1名

<優秀> 鶴が丘中 1名 上杉山中 2名 聖ウルスラ学院英智中 1名
 中山中 3名

<入選> 鶴が丘中 1名 五橋中 2名 中山中 2名

◆9月18日（土）

第88回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール（名取市文化会館）

（NHK仙台放送局スタジオ／音声審査）

<奨励賞> 五橋中 長町中

◆10月20日（水）

第74回仙台市中学校音楽発表会（トークネットホール仙台大ホール）中止

参加対象校：学校番号奇数校

◆11月1日（月）～12日（金） 第73回仙台市中学校作曲コンクール

<会場> 各校にて自校開催 参加校：10校 参加者：35名 作品数：57点

◆11月4日（木） 第3回定例会・研修会

<授業研究>

領域	授業者	題材	助言者
歌唱	伊藤 結香 教諭 秋保中学校	声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう	日下尚子主任指導主事 市教育センター
鑑賞	高野菜々子 教諭 田子中学校	曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう	岩倉一治 校長 南中山中学校

◆11月16日（火） 第73回仙台市中学校作曲コンクール審査会（仙台市教育センター）

<入選> 第一中 1名（4点） 高森中 1名（2点）

◆12月3日（金）

第73回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール作曲の部本選会

（仙台市教育センター）

【第一部】<宮城県音楽教育研究協議会長賞> 第一中 1名

<宮城県教育委員会教育長賞> 第一中 1名

【第二部】<宮城県音楽教育研究協議会長賞> 第一中 1名

◆令和4年2月16日（水）

第73回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール表彰式 中止

（常盤末学園高等学校シエトラウスホール）

◆2月17日（木） 第3回幹事会（仙台市立土杉山中学校）

（1）令和3年度事業報告、決算報告について

（2）令和4年度事業計画、予算案について

紙面報告

令和3年度 仙台市中学校教育研究会音楽研究会

第1回 定例会・研修会要項

令和3年5月13日(木) 15:00～

仙台市教育センター

- 1 開会のあいさつ 会長 吉田 知彦先生（上杉山中校長）

- 2 自己紹介

- 3 報告と協議
 - (1) 令和2年度事業報告
 - (2) 令和2年度会計決算報告および監査報告
 - (3) 令和3年度事業計画案
 - (4) 令和3年度予算案
 - (5) 令和3年度市中音研組織
 - (6) その他

- 4 研 修
研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」
について全体・各部会での討議

- 5 事務連絡
第2回定例会の参加申込みについて
第2回定例会（9／16）は、センター研修と共催になりますので、オンライン申込みが必要です（研修の1ヶ月前まで可能）。各自で申し込んでください。
調査官から、評価についての話をうかがえる貴重な機会なので（教科研究会が中止となっても実施される可能性あり）参加して学びましょう。

- 6 閉会のあいさつ

令和3年度 仙台市中学校教育研究会音楽研究会
第2回定例会

第2回定例会は新型コロナウイルス感染拡大のためオンデマンド配信で開催。

「新学習指導要領を踏まえた音楽科の指導と評価」

講師：河合 紳和先生（国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官）

資料は別紙の通り。

第3回 定例会要項

令和3年11月4日(木)

《次第》

- 1 受付 秋保中13:35～ 田子中13:50～
 2 研究授業 秋保中13:50～ 田子中14:00～

領域	会場	授業者	題材	助言者
歌唱	秋保中学校	伊藤 結香教諭	声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう	日下尚子主任指導主事 (市教育センター)
鑑賞	田子中学校	高野菜々子教諭	曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう	岩倉 一治校長 (南中山中学校)

3 新入会員の紹介

- (1) 令和2年度、3年度新入会員の紹介

4 研究討議 (～16:20)

- (1) 流れ

授業者自評

話し合い

全体協議

指導助言 等

- (2) 授業の振り返り

ワークショップ型で行います。

5 事務連絡 (～16:40)

- (1) 仙台市中学校音楽発表会について(今年度は中止でした)

令和4年度 期日:10月19日(水)

会場:トークネットホール仙台 大ホール(仙台市民会館)

参加校:学校番号奇数校

- (2) 作曲コンクールについて

期日:～12日(金) 自校開催 期日まで作品提出、提出先を確認

11月16日(火)作曲コンクール審査会(市教育センター)

- (3) その他

6 閉会 (16:45)



第2学年 音楽科 学習指導案

令和3年11月4日(木) 5校時
場 所 仙台市立秋保中学校 多目的ホール
指導学級 2年A組 17名
指 導 者 教諭 伊藤 結香

1 題材名 「声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう」

2 題材の目標

- (1) 長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識・技能)
- (2) 長唄の声の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、長唄にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 長唄の声の音色や響き、旋律の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

○本題材における学習指導要領との関連

指導事項 A表現(1)歌唱 ア、イ(イ)、ウ(ア)

[共通事項] (1)音楽を形づくっている要素:「音色」、「旋律」

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、我が国の伝統芸能である歌舞伎に親しみ、長唄にふさわしい声の音色や響き、発声や歌い方はどのようなものかを考え、創意工夫を生かして音楽表現を追求していく題材である。また、追求したことを生かし、技能として身に付けることをねらいとしている。

これまで、我が国の伝統的な音楽を扱う際には、鑑賞教材として取り上げることが多かった。しかし今回は、表現教材の色を強く出すことによって、我が国の伝統的な音楽の特徴をより深く理解できると考えた。鑑賞による理解だけにとどまらず、実際に声を出して身体で表現することにより、生徒はこれまでよりも伝統音楽を身近に感じるが多くなるのではないかと考える。

よって、この題材を通して、伝統的な歌唱に注目させ、我が国の伝統音楽や伝統的な歌唱に対して理解を深めたり、よさを味わったりするとともに、伝統文化への愛着をもたせられるよう、授業を展開していきたい。

(2) 生徒観

2年A組は、音楽の授業に積極的に取り組む生徒が多い。7月の合唱コンクールに向けた練習では、昨年度思うように歌唱活動ができなかったこともあり、仲間と一緒に歌うことの楽しさを味わいながら取り組んでいた。一方で、歌唱表現に消極的な生徒がいるのも実態である。

また、本題材を構成するにあたり、我が国の伝統音楽や伝統的な歌唱についてのアンケートを行ったところ、以下のような結果が表れた。

1. 日本の伝統音楽の中で、知っているものはありますか？
歌舞伎・・・14名、文楽（人形浄瑠璃）・・・10名、能・・・10名、神楽・・・2名
2. 民謡や演歌を聞いたり歌ったりしたことはありますか？
民謡 聞いたことがある・・・11名、歌ったことがある・・・2名
演歌 聞いたことがある・・・7名、歌ったことがある・・・2名
3. 日本の伝統音楽や民謡などの日本の伝統的な歌について、どのようなイメージを持っていますか？
(回答の中から抜粋↓)
こぶしがある・しゃくりがある・他の文化にはない感じ・しぶい・派手で赤色などが多いイメージ・元々前から身近にあった・聞くと落ち着く・聞くと何度も聞きたくなる・低い音で伸ばす印象が強い

アンケート結果から、我が国の伝統音楽や伝統的な歌唱について漠然としたイメージを持っていることや、なんとなく見たり聞いたりしたことはあるが、実際に歌ったことはないという生徒が多いことが分かった。また、本校ではこれまで、秋保地区の協力を得ながら、我が国の伝統音楽や和楽器に触れる体験を多く行ってきたが、伝統的な歌唱について学ぶ機会はあまりなかった。

これらの実態を踏まえ、本題材では、我が国の伝統的な歌唱を学び、技能として身に付けることも一つのねらいだが、歌唱活動や話し合い活動を通して、我が国の伝統的な歌唱がもつ魅力を味わわせたいと考える。

(3) 指導観

本題材のねらいを達成するために、以下のような手立てで指導に当たる。

- ①創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声や言葉の発音、身体の使い方などを、模範演奏の音声や映像を視聴し、手本をまねる手法で歌唱活動する場面を設ける。
- ②グループの話し合いの活動を経て、長唄にふさわしい表現方法を見出す場面を設ける。
- ③長唄の特徴や歌い方の工夫について自分の言葉で表現できるように、ワークシートや Google の Jamboard アプリを活用し、お互いの考えを共有する場面を設ける。

4 教材について

○歌舞伎「勸進帳」、長唄「勸進帳」 三世並木五瓶 作詞／四世杵屋六三郎 作曲

歌舞伎「勸進帳」は、源義経や武蔵坊弁慶などが登場する物語であり、生徒にとってなじみやすいものである。「勸進帳」を教材として扱い、用いられている長唄を実際に歌う活動を通して、長唄の音楽的な特徴を感じ取るとともに、伝統芸能としての歌舞伎を味わわせたいと考え、教材として選択した。

また、歌唱部分として選択した「これやこの～山かくす」は、荷物持ちに変装した義経が、山伏姿の弁慶と4人の家来を従えて安宅の関所に到着する場面に歌われるものである。生徒が堂々と豪快に声を出して歌いやすいと考え、選曲した。さらに、この歌唱部分には、「唄い尻」や「ゴロ」といった長唄独特の節回しがあり、長唄にふさわしい歌い方を考えるのに適している。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知]長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。(知識)</p> <p>[技]創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。(技能)</p>	<p>[思]長唄の声の音色, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 長唄にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>[態]長唄の声の音色や旋律の特徴に関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 指導と評価の計画

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	[知]	[技]	[思]	[態]
第一時 (本時)	◎歌舞伎における長唄の役割について知り, 長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。				
	<p>○本題材の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎の音楽である長唄の特徴を理解し, 創意工夫して実際に歌うことを知る。 我が国の伝統的な歌唱を学習する意義や目的について理解する。 <p>○長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長唄の模範演奏の映像を視聴し, 声の音色や響き, 言葉の特性などについて気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめ, 発表する。 どのように歌ったら長唄らしい歌い方に近付けられるか考えながら, 模範演奏に合わせて歌う。 グループで意見交換し, 考えをまとめ, 発表する。 全体で考えを共有し, この時間の学習を振り返る。 	(知 観察 ワークシート)			

第二時	◎長唄の声の音色，旋律の特徴を生かして，音楽表現を創意工夫し，工夫を生かした音楽表現をするために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。			
	○前時の学習を振り返る。 ・前時の学習を振り返り，「これやこの～」から歌う。 ○長唄にふさわしい歌唱表現を追求する。 ・前時の学習を生かしながら，模範演奏に合わせて歌い，長唄の歌唱の技能を高める。 ・「これやこの～」からの歌舞伎の場面を視聴し，歌舞伎における長唄の役割について考える。 ・曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・考えたことや感じ取ったことについてグループで意見交換し，考えをまとめ，発表する。 ・全体で考えを共有し，その意見を基に全員で長唄を歌い，歌唱表現を追求する。 ○本題材の学習を振り返る。 ・長唄のよさや価値について考えたことや歌唱活動を通して感じたことなどを振り返り，ワークシート（評価カード）に書く。	〔技〕 演奏	〔思〕 観察・ ワークシート	〔態〕 観察・ ワークシート

7 研究主題との関連

(1) 令和3年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

(2) 研究の視点と手立て

視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫点

〈手立て〉本題材における目標や目指すべき姿を具体的に示し，生徒が学習を通して何を身に付ければよいかを明確に提示する。また，ワークシートやICTを活用し，自分の考えを表現する活動を取り入れる。

視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫点

〈手立て〉話し合いや学び合いが活発に行われるように，教師側で意図的にグループ編制を行う。実際に歌ったり，歌い方について意見を交換したりして，音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また，生徒・生徒間や教員・生徒間の対話を活性化させるためのツールとして，ICTを活用する。

視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫点

〈手立て〉お互いの考えや演奏に対して意見を述べ合う場面を設け，長唄の音楽的特徴やよさについて考えを深めることで，音楽に対する価値意識を更新したり広げたりすることができるようにする。

8 本時の学習指導

(1) 本時の目標 「長唄の特徴をとらえ，歌い方のコツを探ろう」

(2) 本時の指導に当たって

視点1 ワークシートを活用し，自分の考えを表現する活動を取り入れる。

視点2 意図的に編制したグループで話し合い活動を行わせ，お互いの意見を交換し，音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また，対話を活性化させるためのツールとして，GoogleのJamboardアプリを活用する。

(3) 指導過程

○主な学習活動 ・予想される生徒の反応	◇指導者のかかわり ♪評価 [方法]
○本題材の見通しを持ち、本時の目標を確認する。	◇本題材の活動内容を説明する。 ◇我が国の伝統的な歌唱を学習する意義や目的について話し、生徒に理解させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 長唄の特徴をとらえ、歌い方のコツを探ろう </div>	
<p>○長唄の模範演奏 (DVD) を視聴し、声の音色や言葉の発音、歌い方の特徴についてワークシートにまとめる。その後、グループごと Jamboard に意見を記録し、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力強い ・張りがある ・地声に近いような ・深みのある ・音を伸ばして歌っている ・一つ一つの言葉がはっきりしている ・最後の音を下げているところがある ・伸ばしている音が揺れている <p>○長唄「これやこの～わかれては」の部分、模範演奏 (DVD) に合わせて全員で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のままで長唄らしさがないね ・いつも通りの声で歌うと違和感がある <p>○グループに分かれ、どのように歌えばよいか考え、ワークシートにまとめる。グループ活動終了頃、グループの意見を Jamboard に記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正し、自分の声を前に出して歌うようにするとい ・おなかから押し上げるような感じで声を出す ・母音を伸ばしながら歌う ・歌い始めの部分は下から音を出すような感じ ・言葉を言い直すようにして、一つ一つはっきり歌う 	<p>◇生徒の意見を Jamboard ですくい上げ、長唄の特徴を生徒に捉えさせる。</p> <p>◇自分以外の意見から新たな気づきがあったときは、色ペンでワークシートに書き加えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>視点1 ワークシートを活用し、自分の考えを表現する活動を取り入れる。</p> </div> <p>◇教師が初めに模範演奏として歌って聞かせ、生徒の興味を引き出す。</p> <p>◇ワークシートの歌詞を見ながら何度か歌う活動を重ね、次のグループ活動への課題意識を持たせる。</p> <p>◇グループごと模範演奏が聴けるように CD 音源を準備する。</p> <p>◇模範演奏をよく聴き、とにかく歌い方をまねながら、どのようにして歌えば模範演奏に近付くことができるか考えるよう促す。</p> <p>◇話し合いが滞っているグループには教師から助言を入れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>視点2 意図的に編制したグループで話し合い活動を行わせ、お互いの意見を交換し、音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また、対話を活性化させるためのツールとして Google の Jamboard アプリを活用する。</p> </div> <p style="text-align: right;">♪知 [観察・ワークシート]</p>

<p>○グループの意見を発表し，全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あのグループが見つけた歌い方は模倣演奏に近付いている感じがするね。 ・もっと工夫すべきことはないかな。 <p>○学習を振り返り，次時の流れを確認する。</p>	<p>長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【A と判断される姿】 長唄の声の音色や響きと曲種に応じた発声，言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて，話し合いの中で詳細に発言したり，ワークシートに書いたりしている。</p> <p>【C への手立て】 模範演奏の一部分に注目して聴くよう促したり，頭声発声と比べさせながら具体的な例を示したりして，生徒に考えさせる。</p> </div> <p>◇次回は本時の学習を生かし，長唄にふさわしい音楽表現を更に深める活動を行うことを伝える。</p>
--	---

9 準備物

- ・ワークシート
- ・バインダー
- ・テレビ（2台）
- ・DVD プレーヤー
- ・模範演奏 DVD
- ・模範演奏音源（Chromebook 内）
- ・生徒用 Chromebook（5台）
- ・教員用 Chromebook（1台）

第1学年 音楽科 学習指導案

令和3年11月4日(木) 5校時
指導者 仙台市立田子中学校
教諭 高野 菜々子
担当学級 1年1組
場 所 2Fホール

1 題材名 「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう」

2 題材の目標

- (1)「魔王」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。(知識)
- (2)「魔王」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3)「魔王」の旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

本題材における学習指導要領との関連 B鑑賞 (1) ア(ア), イ(ア)

[共通事項] (1) 音楽を形づくっている要素:「音色」,「リズム」,「速度」,「旋律」,
「強弱」

3 題材について

(1) 題材観

・本題材は、学習指導要領のB鑑賞(1)ア「鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、(ア)曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」をねらいとしている。また、イ(ア)「曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」としている。

「魔王」は詩の内容に沿って旋律の雰囲気や伴奏の形などが様々に変化していくことを知り、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。また、これらをふまえて曲を聴き返したり、複数の演奏を比較することで音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる題材であると考え設定した。

(2) 生徒観

・今まで映画音楽「ジョーズ」やヴィヴァルディの四季より「春」の鑑賞を行い、様々なイメージや情景がどのような音楽の特徴から生み出されているのかを感じ取らせる活動を行った。「曲を聴いて怖い感じが伝わる」、「明るい曲調で、春のワクワクする気持ちが表現されている」など、授業に関心をもち、音楽のイメージや情景を言葉や文章で表現する生徒が見られた。しかし、「低い音がだんだん大きくなり、速さの変化によって怖さが増す」や「雷の場面では、急に低い音でリズムが細かくなり、不安な感じがする。」など、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱等を知覚し、曲想と音楽の構造との関わりを言葉や文章で表現するまでには至っていない生徒が多くいる。さらに、自分の思いや考えを言葉や文章で表現する事が苦手な生徒がいることも課題である。そこで、話し合い活動の時間を充実させ、より多くの人の意見や考えを共有できる機会を増やす。そして最終的に

「曲想と音楽の構造がどのように関わっているのか」を理解し、生徒一人一人が「音楽のどの部分からそう感じたのか」を考えながら、音楽のよさや美しさを味わい主体的に鑑賞できるようにしたい。

(3) 指導観

・本題材のねらいを達成するために、以下のような手立てで指導に当たる。

- ① Chromebook を活用して繰り返し音源を聴かせたり、意見交換をさせたりして、歌詞の内容と曲想、音楽の構造との関わりを理解する活動を取り入れる。
- ② 音楽の聴き比べを行う活動で、「魔王」の演奏を2つに絞り、自分なりに考えた「魔王」のよさや美しさをじっくり考える時間を取る。
- ③ 話し合い活動の時間を充実させ、より多くの人の意見や考えを共有できる機会を増やす。

4 教材について

『魔王 -Erlkonig-』ゲーテ作詞 シューベルト作曲



・この曲は、音高、旋律の雰囲気の変化、転調などによって、4人の登場人物の心の動きを巧みに描き分けている。さらに、ピアノ伴奏が物語の情景描写を行っている。音楽を形づくっている要素（音色・リズム・旋律・強弱等）を知覚し、曲想の変化を感じ取りながら、詩の内容を想像させるなど、生徒は音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる教材である。

<参考音源> 中学生の音楽1指導用CD「魔王」

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「魔王」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。	思 「魔王」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。	態 「魔王」の旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（3時間扱い 本時3／3時間）

時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知 技	思	態
第1時	<p>◎「魔王」の表現に関心をもち、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。</p> <p>○日本語の「魔王」を聴いて、作曲者、作詞者、四人の登場人物について知る。 ・作曲者、作詞者、四人の登場人物について教師の説明を聞く。</p> <p>○登場人物の声の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・個人で日本語の詞を見て、登場人物の心情や様子をワークシートにまとめる。 ・個人で登場人物の声の音色、旋律、強弱に注目しながら音源を聴き、それぞれの部分がどのように表現されているかワークシートにまとめる。</p> <p>○個人で聴き取ったことと感じ取ったことを班ごとに共有する。 ・登場人物の声の高さや声色が詩の内容に沿って様々に変化していくことを感じ取り、詞の内容と曲想、音楽の構造との関わりを班ごとに共有する。 ・登場人物ごとに Chromebook の jamboard にまとめる。</p>			
第2時	<p>○前時の学習のまとめの続きを行う。 ・班ごとに音源を聴く。 ・登場人物の声の高さや声色が詩の内容に沿って様々に変化していくことを感じ取り、詞の内容と曲想、音楽の構造との関わりを班ごとに共有し、登場人物ごとに Chromebook の jamboard にまとめる。</p> <p>○班ごとにまとめたものを全体で共有する。 ・Chromebook の jamboard をテレビに映し出し、考えを発表する。</p> <p>○ピアノの伴奏に着目し、ピアノ伴奏が詩の内容や登場人物とどのように関わっているのかを考える。 ・前奏と魔王の伴奏部分のリズム、旋律、強弱を知覚し、個人でワークシートにまとめ、数名発表する。</p> <p>○ドイツ語の演奏を DVD で鑑賞し、これまでの授業の振り返りを Chromebook で行う。</p>	<p>知</p> <p>△観察▽ ワークシート▽</p> 		

第 3 時 本 時	◎複数の演奏を聴き比べ、表現の特徴を感じ取る。			
	○2つの演奏を比較して音源を聴き、それぞれの特徴をおさえる。 ・2種類の「バリトン」の音源を比較して聴く。 ・それぞれの音源の特徴や気づいたことをワークシートにまとめる。 ○曲想や歌詞の内容がより伝わる表現をしている曲を1曲選び、その理由を考える。 ・これまで学習したことを踏まえ、その曲のよさや美しさについて音楽の特徴と関連付けながら、自分の考えをワークシートに書く。 ○生活班を作り、自分の考えを発表する。 ○全体で意見を共有する。		思 観察 ワークシート	能 観察 ワークシート

7 研究主題との関連

(1) 令和3年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会 研究主題
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

(2) 研究の視点と手立て

視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫点

<手立て> ・ワークシートや Chromebook を活用し、自分の考えを表現する活動を多く取り入れる。

視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫点

<手立て> ・ワークシートをもとに自分の意見を相互に伝える班活動を取り入れる。

視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫点

<手立て> ・Chromebook を活用して、音源の聴きたい部分を繰り返し聴き、自己のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。

8 本時の学習指導

(1) 本時の指導目標

・複数の演奏を聴き比べ、表現の特徴やよさを感じ取る。

(2) 本時の指導にあたって

視点2 ・自分の意見を相互に伝える班活動を取り入れる

視点3 ・Chromebook を活用して、音源の聴きたい部分を繰り返し聴き、自己のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。

(3) 本時の学習指導過程

段階	主な学習内容 ・ 予想される反応	◇指導者のかかわり ♪評価 [方法]
導入 3分	1 前時を振り返る。 2 本時の目標と流れを確認する。	◇「魔王」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容を振り返る。
展開 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 複数の演奏を聴き比べ、表現の特徴やよさを感じ取ろう </div> 3 個人で2つの演奏音源を聴き、それぞれの特徴を比較する。 ・ Aは、速度が速い。 ・ Aは、魔王の歌い方がBよりなめらか。 ・ Bは、ピアノ伴奏がAより激しい。 ・ Bは、子どものセリフの歌い方がだんだん激しくなっていく。	◇2つの演奏を Chromebook で聴けるようにする。 ◇特徴をプリントに箇条書きでまとめさせる。 ◇生徒と教員との対話形式で意見を出させる。 ◇音色、リズム、速度、旋律、強弱をどのように生かして表現しているかを考えさせる。
20分	4 曲想や歌詞の内容がより伝わる表現をしている曲を1曲選び、その理由を考える。 ・ Aの方が、速度が速く、子どもの焦りや不安な気持ちがより強く伝わる。 ・ 子どもの1回目は声がとても小さい。3回目は叫んでいるように聞こえるなど、強弱の変化の幅が大きいから、子どものより不安な気持ちが出ているBが良い。 ・ Aの方が、魔王の声がレガートに聞こえ、不気味さを引き立てる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 視点3 Chromebook を活用して、音源の聴きたい部分を繰り返し聴き、自己のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ♪「魔王」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 【思】 <観察, ワークシート> 【Aと判断される姿】 複数の演奏を比較し、「魔王」のよさや美しさ、についての自分の考えを曲想と音楽の構造との関わりに基づいて、具体的かつ詳細に書いている。 【Cへの手立て】 個別に級友の意見を参考にしよう伝えたり、登場人物を絞って聴き、曲想と音楽の構造を感じ取るよう助言する。 </div>
10分	5 生活班で、自分の考えを発表する。	◇生活班で選んだ曲とその根拠について発表させる。また、相手の意見で参考になったことをワークシートに記入させる。

<p>終 末 7分</p>	<p>6 全体で意見を共有する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点2 ワークシートをもとに自分の意見を相互に伝える班活動を取り入れる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>♪「魔王」の旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【態】 <観察, ワークシート></p> <p>【Aと判断される姿】 「魔王」の旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動に進んで他者と関わりながら粘り強く取り組み、毎時間の学習目標の達成に向けて、自らの学習やグループの振り返り、調整しようとしている。</p> <p>【Cへの手立て】 個別に、グループの意見をワークシートにメモし、自分の考えにより近いものを考えさせる。</p> </div>
-----------------------	----------------------	--

9 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>今日の目標</p> </div> <p>複数の演奏を聴き比べ、表現の特徴やよさを感じ取ろう</p>
--

10 準備物

- ・教師：Chromebook, TV, ワークシート, 「魔王」音源
- ・生徒：筆記用具, 教科書1, ファイル, Chromebook, イヤフォン,
イヤフォンジャック分配器

1年鑑賞「魔王」ワークシート①

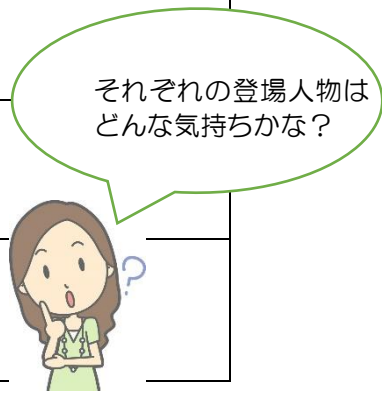
今日のテーマ：「魔王」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて知ろう！

1年 組 番 名前

① 詩の内容を理解しよう！

- 教科書の詩を読んで、物語の内容、登場人物の様子や気持ちを整理しよう！

子	
父	
魔王	



② 登場人物それぞれを音楽でどのように表現しているか聴き取ろう！

- 音楽を形づくっている要素に注目しよう！

声の音色は？ 旋律（メロディー）は？ 声の高さは？ 強弱は？

- 物語が進むにつれて、音楽が変化しているよ！

登場人物	様子・気持ち	声の音色 旋律（メロディー） 声の高さ 強弱
子 (4回登場)		
父 (4回登場)		
魔王 (3回登場)		

③ ピアノ伴奏に注目し、詞の内容や登場人物とどのように関わっているか考えよう!

・前奏は何を表しているかな・・・?

右手・・・

左手・・・

・物語のスタート（冒頭）の伴奏と、魔王の伴奏はどんな工夫がされているかな？
また、それはなぜだろう・・・?

●冒頭  *f*

●魔王 (1回目)  *ppp*

●魔王 (2回目)  *ppp*

【ヒントコーナー】

父と子の声

父と子の声を区別するために、
どのような工夫をしているでしょうか。



大人の声だから...




ほう や


子の変化

子が父を呼ぶ場面が4回あります。
音楽をどのように変化させたでしょうか。

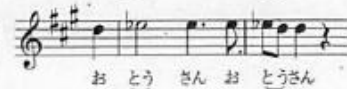


1回目 2回目 3回目 4回目

●1回目  *おとうさんここに*

●2回目  *おとうさんおとうさん*

●3回目  *おとうさんおとうさん*

●4回目  *おとうさんおとうさん*

音の
高さが...



魔王の変化

魔王の様子が変わるとともに、
音楽をどう変化させたでしょうか。




かわいいいいこじゃのうぼうや



か わ い や い い こ じ ゃ の う ぼ う や



じたばたしてもさらってくぞ



じ た ば た し て も さ ら っ て く ぞ

① 2つの演奏を比較して、それぞれの特徴を知ろう！

Aの演奏	Bの演奏
------	------

② 2つの演奏を比較して、「曲の雰囲気」や「登場人物の様子」,
「歌詞の内容」がより伝わるものを選び、その理由を書こう！

- ・音楽を形づくっている要素に注目しよう！

声の音色は？ 速度は？ 旋律（メロディー）は？ 強弱は？

自分が選んだ演奏は A ・ B です。
なぜかというと ↑どちらかに○をつけよう

『なぜ』そう思ったの？
音楽の要素と結び付けて考えてみよう！

〈ほかの人の意見〉

Aを選んだ人

Bを選んだ人



令和3年度 第3回定例会 授業検討会内容（歌唱）

授業者：秋保中学校 伊藤 結香 教諭
司会：長町中学校 木下真理子 教諭
記録：折立中学校 阿部紗也加 教諭
写真記録：中野中学校 佐藤 桃子 教諭
指導助言：仙台市教育センター 日下 尚子主任指導主事

研究討議

〈授業者自評〉

- ・本時の授業について、Jamboard は以前授業でも使っているため子ども達の抵抗感なく進められた。
- ・Jamboard を使うことで、教師側が意図的に子ども達の意見をグルーピングして、まとめることができた。
- ・長唄を歌うことについて、最初は子ども達に恥じらいがみられたが、こちらが助言をしてアプローチすることで、子ども達もだんだんと歌うコツを掴み、授業後半は長唄を歌う声も大きくなっていった。
- ・子ども達が日常的に長唄を歌うことがないので、長唄を歌うことの動機付けとして具体的な方法があれば教えてほしい。
- ・今後は、子ども達に長唄をみんなの前で歌わせ、他の生徒がそれを聴く活動をしていく。その中で「そこいいね」等と、各グループのいいところを褒め合い、長唄の歌い方の向上について深めていきたい。

〈グループ討議〉

- ・5グループに分かれて、成果と課題について協議を行った。

〈全体討議〉

【成果】

○ICT 利用について

- ・クロームブック等の ICT を生徒がしっかり使えるようになっている。
- ・Jamboard の利用により、意見の共有ができるし共有しやすくなる。(挙手するのが苦手な生徒も楽)
- ・主体的な学びにつながっていたし、対話的でもあった。
- ・音源データの活用もよかった。

○授業構成・生徒の学習の様子や変容について

- ・意図的な班構成により、生徒が集中して取り組んでいた。
- ・班活動が長いことで、子どもが試行錯誤する時間が多くあり、気づきが増えたと思う。
- ・生徒と先生の対話や、生徒にかける先生の言葉が良かった。
- ・生徒たちが、耳を使って集中して聞き取ろうとする感じがあって良かった。
- ・楽しそうに終わっていて良かった。
- ・授業の雰囲気や生徒の表情がとても良い。生徒と先生の日頃の関わりが目に見える。
- ・先生が見本を見せることで、生徒も盛り上がり、やる気がわいたのではないかな。
- ・最終的に声が変わってきたのがはっきり分かって良かった。
- ・意図的な少人数グループでの活動が良かった。
- ・ワークシートに聞くポイントが書いてあり、分かりやすい。
- ・生徒は歌舞伎についての知識もあり、先生の「よく聞いてから練習して」という声掛けの通り、考えてから練習していてよかった。
- ・歌いながらワークシートも書けるといふ、教員の配慮が素晴らしい。

【課題】

○ICTの利用について

- ・音源だけでなく、動画も繰り返し見せることで、気付きが増えるのではないかな。
→著作権上用意できなかった。
- ・音源の音量が小さかったのも、一人1台クロームブックを用意し、イヤホンで聴いたら良かったのではないかな。
→授業場所のネット環境が悪く、そうしたかったができなかった。
- ・音源を、男声・女声バージョンの音源をそれぞれ聞かせてあげると良かったのではないかな。

○授業構成について

- ・活動が滞る班もあったので、活動に段階を付けて練習するといいいのでは
- ・歌詞の活用があまりされていなかったのも、ワークシートで活用するのはどうか。
- ・班活動だけでなく、生徒自分一人の意見を書かせるのもいいのではないかな。
- ・ワークシートに書かせるだけでなく、生徒の言葉で共有する。
- ・終わる時間をもう少し早めに教えてあげると良いと思う。
- ・最初に、何のヒントもなくやってみて、なんで見本通りにできないのか考える時間をとるといい。
- ・生徒から出た意見を、歌う方の活動につなげながら掘り下げるといいのではないかな。
- ・本時の中で、「思考・判断・表現」の見取りもできたのではないかな。
- ・歌うことがうまい生徒には、みんなの前で発表させるとよいのではないかな。
- ・最初に、音色や響きなどポイントを絞ってやると、生徒ももっと深められたのではないかな。
- ・導入で、唄の波形を考え、記入させる活動があると良かったのでは。
- ・何ができて、わかって正解なのか、いまいちはっきりしていなかったのも、先生が教えたいこだわりポイントがあると良いと思う。

〈指導助言〉

○授業について

- ・一番重要だったところは、意図的にグループを作って、意図的に授業の流れを作っていたこと。(意図的なグループだからこそ、授業の流れも良くなる。)
- ・授業準備が成功していて、スムーズな流れだった。
- ・普段からの生徒と教師の信頼関係が見えた。
- ・先生と一緒に歌を歌うなど、生徒と一緒にやってみる、真似ることが大事。
- ・対話的な学びは、音楽では言葉と音楽で表現することなので、自分の演奏と、模範演奏との違いを、生徒と一緒にやりながら、話しながら試行錯誤して見つけていく。
- ・創作で、ICTは使うためにやるものではないので、必ず使わなくても良い。
- ・ICTは、思わぬ不備により動かなくなることがあるため、週に1回の授業が潰れてしまうかもしれない不安がある。使い方には十分な準備や工夫が必要である。

○評価について

- ・鑑賞と歌唱など、違う領域のものを1つのものでやるのか、別でやるのかは、よく考えなければならない。→流れ・評価・共通事項のところを一緒に見て作る流れがやりやすい。
- ・「長唄らしさ」を先生がどのように考えているか、どんなことを声掛けすれば良いか、どのように評価につなげていくかよく考えること。
- ・どのように音楽的な力を身に付けさせるのか、授業をやっていく中で、自分がどこで何を評価していくのか、最初の見通しが大事。
- ・歌舞伎の部分と長唄の部分を1つの教材としてやっていく。
(思考判断表現→知識→技能→思考判断表というサイクル)

令和3年度 仙台市音楽研究会 第3回定例会（鑑賞部会） 研究協議のまとめ

令和3年11月4日（木）

授業者：田子中 高野 菜々子 教諭
司会：南中山中 佐々木 香奈 教諭
記録：長町中 信山 栄香 教諭
指導助言：南中山中 岩倉 一治 校長
参加者：28名

1. 研究討議

<授業者自評>

- 「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取り、様々な表現を味わおう」という題材で授業を行った。別紙で前回までの授業で使用した Jam ボードを参考資料としてのせた。見てもらうと分かるが、この題材による活動を通して、少しずつだが「子どもの声が高くなっていくのは子どもが怖がっている、助けてほしい気持ちの高まりから」というように理解する生徒が以前よりも増えてきた。「魔王」という教材に助けてもらって、「ジョーズ」や「春」ではできなかった意見の交流ができるようになったと感じる。
- これまで生徒が習得したことを活用させて、学習過程で「音楽的な見方・考え方」を働かせながら音楽の特徴をとらえて曲の良さを味わって聴くことができるよう、なぜそのように感じたのか、どのような音楽の要素からそう感じたのか、どのようなイメージがわいたのか、という発問を教師が問い、思考を深める授業を心掛けた。
- 田子の生徒は家庭でクラシック音楽を聴く機会が少ない生徒が多い。そのため感性が乏しく、能力的にも低い生徒が多い。最後に発表した生徒は非常に低学力で授業への取り組みがあまりよくない生徒ではあるが、音楽を聴くのが好きな生徒だった。盛り上がっていた班の意見（ピアノを習っている生徒がいる・比較的学力の高い子たちが集まった班）では、伴奏が切れていることで馬が駆けていく様子がより表れている・魔王の声により狡猾さが出ているなどの意見が出た。
この後の事後検討会では、先生方からご意見をいただき、たくさん学ばせていただきたい。

<全体討議>

○授業の視点について

視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫点

視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫点（本時）

本時の手立て：自分の意見を相互に伝える班活動を取り入れる

視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫点（本時）

本時の手立て：Chromebook を活用して、音源の聴きたい部分を繰り返し聴き、自己のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。

- 本時の視点に対する手立ての有効性を中心に、生徒の姿や発言から見取った成果と課題について、グループ毎にワークショップ形式で意見交換

Aグループ

◎肯定的意見・生徒の学習の様子や変容

視点3 十分に活用できていた。

視点2 班活動で活発に意見交換ができていた。

◎改善案・生徒の学習の様子

視点3 ドイツ語だと、どの部分を聴いているかわからなくなる生徒がいるため、音源をトラック分けしたほうがよい。イヤホンを使って聴いていると2つの音源のうちどちらか一方の音源しか聴いていない生徒がいても気付かない。音源の比較の仕方を考えるといいと思う。

視点2 最初に2つの音源を聴き比べた時の特徴の気づきを、教員側で提示している部分があった。主な

学習内容の4以降の活動をすることで生徒自身が気付くことができた部分ではないか。また、教員側で提示した部分を省略することで最後の意見共有の時間もより多くとることができたと思う。

Bグループ

◎肯定的意見・生徒の学習の様子や変容

- ・活動に入る際に教員から明確な指示があった。(なぜそう思ったのかをしっかりと記入するなど。)
- ・ワークシートの自分の意見を書く部分に「なぜならば・・・」と書いてあった。それらが生徒の取り組みやすさにつながった。

視点2 話し合いによる「認め合い・共有」ができていた。

視点3 イヤホンを使って個々で音楽を聴くことで生徒が集中して取り組んでいた。

◎改善案・生徒の学習の様子

視点3 音楽が得意な生徒や不得意な生徒をちりばめ、生徒の人間性や関わりを考慮した音楽専用のグループを編成するといいいのではないかと
それぞれの音源の特徴を教員側で提示するのではなく生徒の言葉で引き出したい。

Cグループ

◎肯定的意見・生徒の学習の様子や変容

視点3 適切なICTの活用ができていた。

視点2 教員の指示により話し合いが深まっていた。

◎改善案・生徒の学習の様子

視点3 比較対象を検討してもいいのではないかと。今回はどちらの音源もバリトン歌手によるものだったが、声種を変えるなど明らかに違いがある音源を聴いた方が生徒も意見が出しやすかったと思う。

ポイントを絞って音源を聴かせるといいと思う。例えば、「魔王」の部分だけ聴くなど。その場合、音源をトラックに分けてみても良いかもしれない。そうすることで、前半部分の時間をより縮小し、最後の意見共有の時間が多くとれたのではないかと。

視点2 最後の共有の時間にもう少し時間がかけられるといいと思う。

Dグループ

◎肯定的意見・生徒の学習の様子や変容

視点3 クロームブックに音源を入れて聴くことによって、何回も繰り返し聴くことができる。普段クラシックに馴染みのない生徒には繰り返し聴くことが必要だと思う。

視点2 分配器やイヤホンを使って音源をグループで共有して聴くことができるのは大変よい。それによって生徒は意見交換も意欲的に取り組んでいた。どのような経緯で購入できたのか教えていただきたい。

ワークシートに友達の意見を書く部分があった。意見を共有するのに役立っていた。

◎改善案・生徒の学習の様子

特になし

2. 指導助言

○コロナによって音楽科教員同士、顔を合わせての検討会が久しぶりになった。コロナも次第におさまってきて、社会全体の雰囲気は殺伐したものから、少し明るく変わってきたのではないかと。

○新学習指導要領について

授業をつくるうえで、考え方の根本が非常に大事。内容が大きく変わっているわけではない。学習指導要領の書き方が教員の立場からではなく、生徒の立場から書かれるようになったのが最大の変化。

○本日の授業について

成果は、1人1台端末の活用によって、クロームブックを有効に取り入れていたこと。これまでの鑑賞の授業では、同じ曲の同じ部分を一齐にしか聴けなかった。しかし、クロームブックを持つことによって、同じ部分を繰り返し個人で聴くことができるようになった。それによって、生徒の気づきを増やすことができるようになった。高野先生の授業では、コロナによって制限されてきた話し合い活動も、Jamボードを活用することによって有効な手立てとなった。

しかし、ICT機器を使うこと自体が目的ではない。生徒に身に付けさせたい資質・能力を伸ばすために積極的にICT機器を活用していくことが大切である。まだわからない部分も多いと思うので、音楽科の教員内で情報を共有し、全員でICT機器の活用について考えてもらいたい。

○共通事項を普段から活用すること。題材全体、本時で扱う指導内容を焦点化することが必要。また、1つの授業内で使う観点を明確にすることが大切。指導に当たっては、共通事項の選定をしっかりと行ってほしい。

3. 授業者のまとめ

最後の共有の時間をどうすればもう少し多くとれるか悩んでいた。この検討会で最初の時間をコンパクトにできる・聴くポイントを絞ることで時間の縮小を図るといった意見をいただいた。

今後もICT機器を使用しながら、今回の検討会の意見も参考にし、頑張って取り組んでいきたいと思う。

令和3年度 第73回 仙台市小・中・高等学校児童生徒作曲コンクール

令和3年度 第73回 宮城県小・中・高等学校児童生徒 作詞・作曲コンクール

令和3年度
第73回 仙台市小・中・高等学校児童・生徒

作曲コンクール

令和3年度
第73回 宮城県小・中・高等学校児童・生徒

作詞・作曲コンクール

○中学校の部

開催日 令和3年11月1日(月)～
11月12日(金)

会場 各中学校

仙台市作曲コンクール

参加校：10校
参加人数：35人

第一部 作品数：18 入選数：2
第二部 作品数：39 入選数：4
合計 作品数：57 入選数：6

☆入選(県提出)作品 作曲者

Y.H	第一中	：	1-A
Y.H	第一中	：	1-B
Y.H	第一中	：	2-B
Y.H	第一中	：	2-C
S.M	高森中	：	2-A
S.M	高森中	：	2-C

○受賞者一覧(仙台市関係のみ)

☆作詞の部

特選	：	A.K	聖ウルスラ中
特選	：	A.S	住吉台中
優秀	：	H.O	鶴が丘中
優秀	：	M.T	上杉山中
優秀	：	K.H	上杉山中
優秀	：	S.N	聖ウルスラ中
優秀	：	H.S	中山中
優秀	：	A.K	中山中
優秀	：	F.S	中山中
入選	：	N.I	鶴が丘中
入選	：	T.M	中山中
入選	：	C.Y	中山中
入選	：	S.Y	五橋中
入選	：	M.O	五橋中

☆作曲の部

♪宮城県音楽教育研究協議会長賞

Y.H	第一中	：	1-B
Y.H	第一中	：	2-B

♪宮城県教育委員会教育長賞

Y.H	第一中	：	1-A
-----	-----	---	-----

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立第二中学校		授業者 橋 志保・特担 (T2・T3)	
題材名 「合奏の楽しさを味わう」～ハンドベル～			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりに気づく。【知識・技能】 ・曲の雰囲気を把握し、曲にふさわしいハンドベルの表現をする。 【思考・判断・表現】 ・主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動する楽しさを味わう。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	ハンドベルの演奏に主体的に取り組める場面を設定し、協働して音楽活動する楽しさを味わわせる。
		視点2	対話によって自分の考えを深め、より良い演奏に仕上げようとする
	視点3	リズム・ハーモニー・バランスなどの音楽の要素や構造を手掛かりに音楽の深い学びに繋げる。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和3年12月17日 (金)	指導学級 特別支援学級
	ねらい	ハンドベルの演奏を完成させよう	
			視点 ①・②・③
II 指導 過程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	1 集合 2 あいさつ 3 本時の目標を確認する	T1は「礼」の時のハンドベルの音のリズム、拍、長さを指示する。 ハンドベルの演奏をレコーディングすることを説明する。
	展 開	4 「笑点」のテーマ、「炎」、「カントリーロード」、「よろこびの歌」を演奏する。 ・リズム ・ハーモニー（音の重なり） ・メロディとのバランス（音量） ・歌う部分はしっかり歌う 5 録音した演奏を聴き、感想をワークシートに記入する。 6 感想を発表し、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏の前に T1 はリズムを合わせることで、音が重なったときの響きを聴くこと、ハンドベルの音量や歌う部分はしっかり声を出して演奏するように指示する。 T1 は鍵盤楽器で前奏を演奏する T3 は全体の演奏を観察し、演奏を録音する。 T2, T3 は合わせて演奏できるように姿勢やハンドベルの動き（音）を支援する。（演奏観察） 視点1 「主体的な学び」 ・録音した演奏を聴き自分の演奏を振り返らせる。（記述分析） ・文章表現が難しい生徒には個別に支援する。（発言分析） ・「どのようにしたらさらに良い演奏になるか」を考え、話し合わせる。 視点2 「対話的な学び」 リズム・ハーモニー・バランス（音量）の項目ごとに話し合い気づいたことを発表させる。
終 結	7 全曲を通して演奏する。 8 演奏を終えた感想をワークシートに書く。	ワークシートに記入させる。	演奏観察 記述分析

<成果と課題>

特別支援学級の担任と協力して、ハンドベルの演奏をレコーディングし、校内で発表することができた。話し合い活動では、リズム・ハーモニーなどの言葉を手掛かりに生徒が自分の考えを発表することができた。さらに対話的な学びを深めていきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名 仙台市立第二中学校		授業者 中澤優子			
題材名 「曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わう」					
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え味わって聴く。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の視点	視点1	・chromebookを活用し、自分のペースで繰り返し音楽を聴く。		
		視点2	・グループで話し合ったり、発表を聞いたりして、考えを深める。		
		視点3	・複数の楽曲を聴き比べることで、シューベルト作品の劇的効果を見つけ出す。		
本時ねらいと視点	日時 令和 3年 12月 2日 (木)	指導学級 1年 1組	ねらい ・2つの「魔王」を聴き比べてそれぞれの楽曲の音楽的特徴を見つける。		
				視点 ①・②・3	
II 指 導 過 程	導入	学習活動 ○シューベルトとライフアルトの「魔王」を全員で一斉に聴き、本時の目標を確認する。	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】 ◇聴き比べを行う2曲について、全員で一斉に聴くことで、それぞれの楽曲の特徴について見通しを持たせる。		
	展開	○各自が自分のペースで2曲を聴き比べ、気づいたことをプリントに記入する。	◇複数の演奏を聴き比べ、主体的にそれぞれの特徴やよさを感じ取らせる。 ◇chromebookを活用して、聴きたい部分を繰り返し聴き、自分のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。【視点1】		
		○4人で意見交換をし、発表する。	◇他の人との意見交換を通して、自分の学習プリントに、同じ考えだった部分には赤線を引き、参考になったことは青ペンで記入させる。		
	終結	○班ごとにどちらか1曲の特徴について発表する。	◇他人の意見を聞くことで、楽曲の構造についての自分の考えを深めさせる。【視点2】 ◇机間巡視を行い、発表してほしい楽曲を指定することで、発表後の共有や議論を焦点化させる。		
		○2曲のどちらがゲーテの詩の内容をより深く表現していると思うか、また自分はどちらの曲を気に入ったかについて、音楽的な特徴を根拠に考える。	◇本時の学習を振り返って、自分の思いや考えをワークシートにまとめさせる。 ◇次回は3人目の「魔王」も聴き比べることを伝え、関心を高めさせる。		

＜成果と課題＞

今年度は、シューベルトの他に、ライヒャルトとレーヴェの作品の音源を用意し、3曲の聴き比べを行った。シューベルト作品の劇的効果の高さを、他の2作品と聴き比べることで見つけ出し、味わわせる授業を行った。シューベルト作品の特徴を理解しつつも、自分の好みを自由に考えることで、様々な音楽に触れる楽しさを体感させることができた。

音楽の諸要素を正しく認識させ、言語化させることはやはり難しい。繰り返し活動を行うことや、感情表現のための言葉の提示など工夫が必要であると強く感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立八軒中学校		授業者 笹谷 侑大	
題材名 混声合唱の響きを味わう。			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想，声部の役割と全体の響き，旋律と強弱との関わり，リズムを理解する。 【知識・技能】 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするための技能を身に付ける。 【知識・技能】 ・歌詞の内容や曲想，声部の役割と全体の響き，旋律と強弱との関わり，リズムを知覚・感受し，自分の思いを持って表現の工夫をする。 【思考・判断・表現】 ・歌詞の内容や曲想，声部の役割と全体の響き，旋律と強弱との関わり，リズムに関心を持ち，意欲的に歌唱表現に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	表現の技能を高めさせるために，個やパートに応じた指導を行い，自ら課題を見つけるよう支援を行う。
		視点2	教師の模範演奏や参考音源を聴かせ，自分の歌いたいイメージを明確に持たせ，課題意識を持たせる。
		視点3	chrome book を用いて自分たちの演奏を録音し鑑賞させ，客観的に課題を考えさせる。
本時ねらいと視点	日時 令和 3年 7月 16日 (金)	指導学級 2年 4組	ねらい 歌詞や言葉の特性を理解し，表現を工夫する。 視点 ①・②・③
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1. 中間発表会の動画を鑑賞する。	○見た目，強弱，音程に注目して聞くように声掛けをする。
		2. 自己評価シートの目標を記入する。	○本時のねらいを説明する。 ○本時の流れを話す。
	展開	3. パート練習をする。	○ソプラノとテノールをパート別に言葉の発音や伝え方についての指導をする。 【視点1】
4. 全体で合わせて歌う。		○chrome book で録音する。指揮者に対して内側カメラで撮影をして鑑賞させる。	
閉	5. 録音を鑑賞する。	○「パート練習で工夫したことが客観的に伝わる」かを確認して鑑賞するよう声掛けをする。 【視点3】	
	6. 全体で合わせて練習する。	○教師の模範演奏を提示しながら指導する。 【視点2】	
終結	7. 自己評価シートの学び・成果を記入する。	○机間指導をする。	

<成果と課題>

生徒が自分の言葉で目標を立てたり，その目標を達成するために生徒同士で意見を出し合ったりする姿が見られた。言葉を伝えるために，発音や言葉に合わせた強弱を意識して表現することができていた。自分たちの力で歌が変わったと思えるようにするために，生徒が考えた工夫を他の生徒にも共有することが必要だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立長町中学校	授業者 木下 真理子
題材名 音のつながりの方の特徴を生かして旋律をつくろう			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身につける。【知識・技能】 リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に創作の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	デジタル教科書を用いて学習の見通しを持たせ、「リズムゲーム」から今回の題材に至るまで系統立てて授業を行うことで、生徒自身の創作への意欲向上を図る。
		視点2	音のつながり方の特徴について感じたことを話し合ったり発表したりすることで、生徒の音のつながりへの興味関心と活用への意識を高める。
視点3		中間発表で創作した旋律を発表し合うことで、自身の作品をより高めよう、創意工夫を深めようとする場面を設定する。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年3月4日(金)	指導学級 1年 6組
	ねらい	音のつながり方の特徴を感じ取り、特徴を生かした旋律を考えてみよう	
			視点 ①・②・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	<ul style="list-style-type: none"> 以前に創作した自分のリズムを演奏する。(列ごとなどで行う) 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標をデジタル教科書で提示する。【視点1】
	展開	<ul style="list-style-type: none"> 「主人は冷たい土の中に」の冒頭部分を例に、音のつながり方の特徴を捉える。 創作の課題を把握する。 ワークシートに自分のリズムを記入し、コード進行の音に合わせてリズムを演奏する。 ワークシートに音のつながり方を意識して、自分の旋律を創作する。 「音のつながり方を工夫した点」を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲を聴いたり、楽譜を見たりすることで気づいた楽曲の音のつながり方の特徴を、少人数グループで話し合う。【視点2】 デジタル教科書に跳躍進行や順次進行など、わかりやすく色分けして提示する。【視点1】 音のつながり方の特徴を生かして、思いや意図を持って自身の作品を創作するように指示する。 ◇リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。【思・判・表】(観察・ワークシート)
	終結	<ul style="list-style-type: none"> 次回、作品を完成させ、グループで発表することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回はクロームブックを一人一台用いて、バーチャルピアノで各自音の確認ができるようにする。

<成果と課題>

- デジタル教科書による目標や楽譜、音源の提示をすることで、生徒の顔が上がり、集中して音楽を聴いたり、話し合い活動に取り組んだりする様子が見られた。画面上で教師が書き込んだものを、生徒が画面と同じ教科書のページに書き写す様子も見られた。
- 生徒が音のつながり方を意識しながらワークシートに書く場面で、音がイメージできず、悩む様子があった。デジタル教科書と同じような、入力すると旋律が再現されるツールがあると、より生徒が旋律のイメージができ、試行錯誤がしやすくなると感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立岩切中学校	授業者 佐々木 茜
題材名 「さくらさくら」を箏で演奏してみよう			
I 授業 の 構 想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり、演奏したりしている。【知識・技能】 音楽の要素（音色、リズム、旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、平調子の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。【思考力・判断力・表現力】 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、それらを生かして音楽表現を工夫しながら歌ったり演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究 の 視 点	視点1	主体的に取り組めるよう、自身の変容を自覚できるワークシートを作り、記述させる。
		視点2	グループ活動を通して、生徒同士で様々な発見ができるような時間を設ける。
		視点3	「音色・リズム・旋律」に着目し、表現の違いが感じられるような場面を設定する。
本時 ねらいと 視点	日時 令和4年1月20日(木)	指導学級 1年4組	ねらい 『さくらさくら』を箏で演奏しよう①
		視点 ①・②・③	
II 指導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	1 前時記入したワークシートで、箏に関する事項について「さくらさくら」の楽曲に関する基本事項について確認する。 2 「さくらさくら」を歌詞と弦名で歌う。	<ul style="list-style-type: none"> 箏の名称カードをホワイトボードに貼り、視覚的に分かるようにする。 楽曲の基本事項及び楽器に関する基礎的な知識を確認し、教材への興味・関心を持たせる。 ◆主体的に取り組む態度・・・観察
	展 開	3 本時の目標、箏の奏法についての説明を聞く。教師の演奏を聴き音色を味わう。 4 グループに分かれ、箏の演奏を行う。（箏の順番を待つ人は、演奏者に合わせて弦名で歌う）	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらさくら」の二段目まで弾くことを目指す。 楽譜を見ながらじっくりと教師の範奏を聴かせる。 正しい演奏姿勢を声掛けし、子どもたち同士で確認できるような環境づくりを行う。 ◆知識・技能・・・机間指導・ワークシート
	終 結	5 学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動での演奏を振り返り、成果と課題をワークシートに記入する。 次回の授業の目標を説明する。

<成果と課題>

日本の伝統文化に触れる機会を音楽の授業で実現したいと考えており、鑑賞ではなく実際に演奏する器楽分野で取り組めることができ、良かったと感じている。授業では、グループ活動を通して自発的に「どうしたら響く音が出るのか」と質問する生徒も多くおり、主体的に学ぼうとする態度が見られた。

課題としては、自己評価の場面でAになる具体的なゴールが分かりづらい点が挙げられた。また、ICTの活用として、録画して記録する方法を実践しても良いのではないかという意見もあった。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名：仙台市立西多賀中学校			授業者：岩崎秀徳		
題材名：楽器の音色や響きを感じ取りながら演奏しよう (ギター きらきら星)					
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につける。【知識・技能】 ・ 曲想に合った表現をするために思いや意図を持って演奏している。【思考・判断・表現】 ・ 主体的・協働的に表現の活動に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の視点	視点1：創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につけるために、段階を踏みながら丁寧に指導を行う。			
		視点2：曲想に合った表現をするために思いや意図を持って演奏するために、曲のイメージを想起させ曲に合った音楽表現を創意工夫する。			
		視点3 主体的・協働的に表現の活動に取り組むために、教師の説明を必要最低限度にとどめ、相互に教え合う活動を多く行う。			
本時ねらいと視点	日時	令和 3年 7月 16日 (金)	指導学級	2年 2組	視点 1・②・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価(※)【本時の視点との関連】		
	導入	・ 前時の復習を行う。			
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲のイメージを想起させ、楽曲にあった演奏方法を考える。 ・ 考えた演奏方法を実践する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲から想像できるイメージを言葉にして表現させるために、意見を強制させることはしない。 ※根拠を持って楽曲のイメージをとらえることができる。 ・ 楽曲のイメージと実際に出ている音が一致しているか確認させる。 ※楽曲のイメージに合うように創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につけることができる。 ※主体的・協働的に授業に取り組んでいる。 【本時の視点との関連】 楽曲から想像できるイメージを言葉にして表現させるために、多くの意見を出させる。言葉がでない生徒には、擬音語や擬態語などの平易な言葉を用いるなど工夫する。 	
	終結	・ 最後に曲全体を通して演奏する。			

<成果と課題>

【成果】

生徒同士で相互に教え合う活動を活発に行うことにより、生徒同士で得意なところや不得意なところを補い合うことで、より理解が深まった。

【課題】

昨今 ICT 教育の導入が進んでいるが、今回の題材では用いなかった。そのため、今後は ICT を生かした授業も積極的に取り入れていかなければならない。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立中山中学校	授業者 高橋 和歌子
題材名 曲想を生かして表現豊かに歌おう 「サンタ・ルチア」			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方等の技能を身に付ける。 【知識・技能】 ・意図を持って歌唱表現を創意工夫したり、表現の違いに気付いてよさや美しさを味わって歌ったりできるようにする。 【思考・判断・表現】 ・主体的に表現学習に取り組み音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しんでいく態度を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	個人発表の場を設定する。歌詞の表現に合わせたフレージングを考え、意図を持った表現で歌うために必要な身体の使い方を身に付けさせる。
		視点2	範唱や級友の歌い方を聴いて表現の違いとそれぞれの良さに気付かせ、多様な表現を体感して表現の幅を広げさせる。
視点3	強弱や息継ぎ等について意識して歌わせることで、3拍子の拍子感やフレーズ感を身に付けさせ、曲の構成や抑揚をとらえた表現ができるようにさせる。		
本 時 ねらいと 視点	日時	令和3年12月22日 (水)	指導学級 2年3組
	ねらい	ブレスの位置や強弱を工夫して歌うことにより、曲の構成や抑揚を意識し、歌詞内容がより伝わる表現を工夫させる。	視点 ① ② ③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習「サンタ・ルチア」を歌う。 ○Chromebookを使用して歌い方をチェック ○本時の目標を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセント、フェルマータを意識して原語で歌う。原語の歌詞の意味を確認する。 ・Chromebookの写真機能で、自分の身体の使い方、聴いている人への見え方を確認して歌う。「ブレスの位置を工夫して歌おう」
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ブレス記号について知る。 ○4小節の息継ぎと2小節の息継ぎを試し、違いを体感する。 ○後半の強弱を確認して、効果的な表現を工夫する。 〈上級編〉 pの部分を4小節の息継ぎで練習する。 ○教科書に自分で決めたブレスの位置を書き込み、自分なりの歌い方を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2小節、2小節で分けて息継ぎした表現と、4小節つなげた表現の違い（歌詞の伝わり方の違い）を聴き取る。 ・どちらの表現が良いか考えさせる。 ・後半の繰り返して、表現を変えて歌わせる。 ・p（弱く）の部分の、音の跳躍と音域の特徴を生かした歌い方を工夫させ、練習する。 ・強弱（アクセントを含む）とフレーズ感（ブレスの工夫）が分かるように歌うことで、曲の構成や、ダイナミックに抑揚をつけて歌わせる。
	終 結	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で決めたブレスの位置で歌う。 ○今日の活動の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞内容の表現を、既習事項を工夫させて表現豊かに歌う。 ・自己評価カードに記入する。

<成果>

- ・聴く活動を度々取り入れて表現の違いを学ぶことで、自分の演奏が聴き手にどう聞こえるかを意識させ、意図が伝わる歌い方を工夫しようと意識させることができた。歌詞の意味を効果的に表現するために、自分はどのような語り方で歌うのか、考えて表現する意識を持たせることができた。

<課題>

- ・自分が歌う姿が聞き手にどう見えているのかを意識させるために Chromebook の写真（動画）機能を使用した。集中せず違う機能で遊ぶ生徒も見受けられたので、更に効果的な方法を模索したい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名 仙台市立山田中学校		授業者 尾留川 諒子			
題材名 歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう。					
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・楽器の音色や演奏の速度などが生み出す特質や雰囲気を感じ、舞踊や演技との関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 ・歌舞伎特有の音楽や表現に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の視点	視点1	生徒の主体性を引き出す手立てとして、導入では身近な文化と歌舞伎が融合した演目を紹介したり、生徒が既に知っている歌のある音楽と歌舞伎を比較し、歌舞伎の音楽的な特徴を捉えさせたりする。展開では音楽と役者の芝居や舞踊との関わりに着目させたりする中で、歌舞伎の魅力を捉えさせる。		
		視点2	歌舞伎の鑑賞を通して感じたことや考えたことを話し合ったり、グループでスライドにまとめたことにより学級全体で意見を共有する場面を設定する。		
		視点3	まとめたスライド作成に伴い、グループでの対話を通して生徒一人一人が感じ取った歌舞伎の魅力についてまとめたり、調べ学習を通して歌舞伎に対する理解を深め、その中で得た情報に対する自分の考えをまとめたりする活動を行う。		
本時ねらいと視点	日時	令和 3年 8月 23日 (月)	指導学級	2年 4組	
	ねらい	我が国に伝わる伝統音楽「歌舞伎」に関心をもつ。			視点 ①・②・③
II 指導過程	導入	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真のヒントから、鑑賞する音楽を予想する。 2. 現代の文化を歌舞伎に取り入れている理由を話し合う。 3. 本時のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のヒントとして、「初音ミク」、「ワンピース」、「Snow Man」、「歌舞伎揚げ」の写真を提示する。 ・幅広い世代や国々に歌舞伎の魅力を伝えようとしていることに気付かせる。【視点2】 ・ワークシートを配布し、本時のねらいと本題材の学習の流れを提示し、学習の見通しをもたせる。【視点1】 		
	展開	長年愛され、守られてきた「歌舞伎」の魅力を探ろう。			
		<ol style="list-style-type: none"> 4. ダイジェスト版の歌舞伎「勸進帳」を鑑賞する。 5. 歌舞伎「勸進帳」について「知っていたこと」と「知らなかったこと」をワークシートに記入する。 6. 学級全体で共有する。 7. 自分が知っている音楽と歌舞伎を比べて、違う点を「発声」、「楽器」、「その他(リズム、速度、雰囲気等)」の項目毎にワークシートに記入する。 8. ペアで知っている音楽と歌舞伎の違いについて説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観ながらメモをとっても良いことと、記入内容はキーワードのみでも良いことを伝える。 ・近くの人と共有しながら記入させる。【視点2】 ・「知っていたこと」と「知らなかったこと」の発表を通じて、歌舞伎「勸進帳」の鑑賞におけるポイントやキーワードを確認する。 ・唄方や役者の「発声」について、地声を用いた力強い声の出し方を行っていることや、特有の節回しがあることに気付かせる。【視点1】 ・三味線方や囃子方で和楽器が使われていることに気付かせる。【視点1】 ・発声や楽器以外の特徴として、楽器の演奏者が複数人いることや唄う人と演じる人が別々であること、歌舞伎特有の緊張感のある雰囲気などに気付かせる。【視点1】 ・記入内容をそのまま音読するのではなく、相手に伝えるように、適宜言葉を付け足しながら説明するよう促す。【視点2】 		
終結	<ol style="list-style-type: none"> 9. 全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表に対し、内容を掘り下げる発問をし、歌舞伎の音楽に対する視野を広げたり、理解を深めたりすることを促す。【視点2】 			

＜成果と課題＞

授業前のアンケートからは、「歌舞伎」について、その言葉やイメージは持っていたとしても、音楽的な視点から特徴を捉えている生徒が少ないことが読み取れた。成果としては、授業を通して歌舞伎特有の発声や和楽器について理解を深めたり、歌舞伎の舞と音楽には深い関わりがあることに気付いたりする生徒が多かったことが挙げられる。課題としては、考えを深めるための活動を行う際の授業者の発問の言葉数が多く、生徒自身が疑問を考えたり気づきを得たりする場面が減ってしまったことが挙げられる。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立中野中学校		授業者 佐藤 桃子	
題材名 「日本の音階を使ってまとまりのある旋律をつくらう」 (教材:「さくらさくら」)			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方の特徴や、反復、変化などについて、表現したいイメージと関わらせて創意工夫をいかした旋律をつくる。(知識・技能) リズムや旋律を知覚し、雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりを考え、創作表現を創意工夫する。(思考力・判断力・表現力) 日本の音階を使った旋律作りに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に学習活動に取り組む。(主体的に学習に取り組む態度) 	
	研究の視点	視点1	振り返りシートを用いて、自分自身の学習を客観的に振り返ることができるようにする。
		視点2	3人1組のグループで活動し、アドバイスをし合ったり、協力し合ったりして活動することができるようにする。
視点3		発表する場を設け、自分の作品の良さを自覚するとともに、級友の作品の良さを見つけ、自分の創作活動に生かせるようにする。	
本時 ねらいと 視点	日時 令和4年2月22日(火)	指導学級 2年4組	視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	1 前時までの復習をする。 ・「さくらさくら」を演奏する。	・礼や姿勢について確認させ、箏の演奏への意識を高めさせる。
	展 開	2 本時の目標と学習内容を確認し、見通しを持つ。 「さくらさくら」のオリジナル前奏をつくらう ・前奏について確認する。 ・模範演奏を聴き、イメージを持つ。 ・楽譜の書き方を確認する。 3 創作の仕方を確認し、「さくらさくら」の前奏の創作する。 ・1小節目をつくる。 ・1小節目を反復させて、2小節目をつくる。 ・1～2小節目から変化させて、3～4小節目を創作する。 ・工夫した点や創作するときにイメージしたことをワークシートに記入する。	・前奏について説明し、学習の見通しを持たせる。 ・3人1組で箏を使い、待っている生徒はサポートやアドバイスをするように助言し、待っている時間も大切にさせる。(視点2) ◇知・技(観察) ◇学びに向かう力(観察) ・数名の生徒を指名し、創作した旋律を演奏させ、作品の良さを認め合ったり、参考にしたりするよう助言する。(視点3) ◇思・判・表(ワークシート)
	終 結	4 本時の振り返りをする。 ・振り返りシートにまなんだことなどを記入する。	・振り返りシートに学んだことを記入するように指示する。(視点1)

＜成果と課題＞

成果：中間発表を行ったことで、級友の作品を賞賛するとともに、自分の作品へ生かしたり、応用したりすることができた。

課題：共有の仕方に工夫がなく、毎回似たような形になってしまったので、共有の仕方を工夫することが必要であると感じている。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立西山中学校		授業者 山田 美樹	
題材名 「ギター演奏に親しもう」			
I 授業 の 目 標	題材 の 目 標	・ギターの基本的な奏法を身に付け、演奏することができる。 【知識・技能】	
		・ギターの音色や響きを感じ取りながら、曲にふさわしい表現を創意工夫する。 【思考・判断・表現】	
		・ギターの構造や音色の違いに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組むことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	
構 想	研 究 の 視 点	視点1：範奏の様子をクロームブックで映し、自分の姿勢や奏法と比較しながら練習を行う。	
		視点2：ペアでギターを交換しながら練習させるため、自分が演奏していない時にペアの奏法をチェックし互いにアドバイスさせる。	
		視点3：ワークシートに練習の経過や課題を記録させ、次時の練習に繋げさせる。	
本 時 ね ら い と 視 点	日時	令和 4年 1月 31日 (月)	指導学級 2年 3組
	ねらい・ギターの奏法を身に付け、奏法と指の移動を工夫しながら演奏する。		視点 1・②・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	1, 前時の復習をする。(全体) ・伴奏に合わせ2オクターブの音階を、4拍・2拍・1拍の順で上行する。	・運指に注意させるため、次の運指を指示しながら上行する。弦やフレットの位置だけでなく、何指を使うかを指示し、次の音への移行を意識させる。
		2, 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">指の移動を意識しながら「少年時代」を演奏しよう</div>	
	展 開	3, プレパランセを確認する。	・手元を拡大するため、事前に録画した模範動画をテレビに映す(生徒自身が各自確認できるよう、クロームブックで繰り返し確認できるようにする) ・次の音への移行を楽にするための奏法であることを理解させる。
		4, 「少年時代」でプレパランセを応用できる部分を探す。(ペア練習)	・各自、模範演奏を参考に練習をする。どの部分で2音間を繋げることができるのか、話し合いながら練習を進める。【視点2】 ・自分の演奏を動画に撮って確認する。
終 結	5, 伴奏に合わせ「少年時代」を演奏する。(全体)	・ペア同士で演奏の様子を見合い、互いに演奏に対して感想やアドバイスを伝える。【視点2】 ・教師は机間巡視し、生徒の状況を把握する。	
	6, ワークシートに自己評価を記入する。	・本時の練習の経過や、次回への課題を記入させる。	

＜成果と課題＞

成果 クロームブックで各自映像を見ることで、教師の手元を拡大したり、繰り返し指の移行を確認することが容易にできた。また、自分の演奏を動画に撮ったりペアで互いの演奏を見合ったりし、客観的な視点を持つことで練習を効果的に行っていた。

課題 指の使い方が上手にできている生徒を紹介したり、ICT機器を活用して意見を全体で共有できる場を作る必要があった。生徒たちは自分の演奏をより良くしようと努力していたからこそ、身近な手本を活用することで生徒たちの意欲をさらに高めることに繋がると感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名		仙台市立根白石中学校		授業者 休石 祐実子	
題材名		音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう 「四季」より春1楽章			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 【知識・技能】 作曲者が情景をどのように表現しているのかに注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞する。 【思考・判断・表現】 曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的にり組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の視点	視点1	簡単なクイズを取り入れ取り組みやすい雰囲気をつくる。		
		視点2	自分の考えをクロームブックのワークシートに記入し、考えを全体で共有する。		
視点3		授業で学んだことや気付いたことを、自分の言葉でワークシートにまとめ、学習の成果が分かるようにする。			
本時 ねらいと 視点	日時	令和 3年 9月 8日 (水)	指導学級	1年 1組	
	ねらい	作者が情景を音楽で表現するために、リズムや旋律、強弱などをどのように表現を工夫しているか理解する。			視点 ①・②・3
II 指導 過程	導入	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
	展開	音楽が表現している情景を感じ取って鑑賞しよう			
		「春」1楽章を通して聴く	⑥の場面を聴きソネットを当てるクイズをする。		
		⑧の場面を聴き楽器のもつ音色や、旋律のもつ雰囲気を感じ取る	【視点1】簡単なクイズを取り入れ取り組みやすい雰囲気をつくる。		
⑩の場面を聴き、どのソネットがふさわしいかその理由も考える	【視点2】自分の考えをクロームブックのワークシートに記入し、考えを全体で共有する。				
終結	「春」1楽章を通して聴く	習ったことを生かして情景を想像しながら聴く。			

＜成果と課題＞

【成果】曲の情景を思い浮かべながら、主体的に音楽表現に取り組もうとする生徒が増えたと感じる。今回は感染警戒レベルが引き上げられたため、クロームブックで意見を全体に共有することにした。発言することが苦手と感じている生徒は取り組みやすかったようだ。

【課題】個人で考えることが難しい生徒は、他の生徒の意見を写してしまっていた。自分で考えをまとめてからクロームブックに入力するなど声かけや工夫が必要だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立向陽台中学校	授業者 佐藤 啓子
題材名 「曲の構成を理解して、曲想を味わおう」交響曲第5番 ハ短調 作品67			
授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽について理解する。【知識・技能】 ・音楽の共通性や固有性について考える。【思考・判断・表現】 ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</p>	
	研究の視点	視点1 主体的な学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の先に、課題解決のための方法を提示し見通しをもつ。
		視点2 対話的な学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・班長を中心とした意見交換が活発になる。
視点3 深い学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの活用により、前時までの学習についての確認、課題、学習等の成果等が分かる。 		
本時ねらいと視点	日時	令和3年11月9日 (火)	指導学級 2年4組
	異なる指揮者によるオーケストラの演奏を聴き比べ、解釈の違いから生まれる音色・強弱・速度の違いを味わって聴くことができる。		視点 1・2・3
指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1 本時の目標を確認する 強弱・速度・音色の違いを聴き比べることで、それぞれの音楽のよさを味わおう。	・前時の学習内容を確認し、曲の構成について掲示しておく。(強弱, 速度, 音色)
	展開	2 4人の指揮者の違いによる演奏を聴き比べ、ベートーヴェンの思いを表現するためには、どのような強弱, 速度, 音色がふさわしいのかを考えプリントに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1楽章の提示部とコーダの演奏を聴かせる。 ・強弱・速度・音色の3つの観点で演奏を聴き比べることを確認する。 ◎はっきり, やや速い, やや強い ◎重たい, 遅い, やや強い ◎激しい, 速い, 強い (音楽を形づくっている要素(強弱, 速度, 音色, 形式, 構成(ソナタ形式, オーケストラの響きなど)と曲想との関わりを理解し, 根拠をもって批評するなどして, 音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【鑑賞の能力】〈プリント・発表)
	終結	3 自分のイメージと合う演奏を選び、どういう点でふさわしいと感じたかを意見交換し、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班で意見交換を行う。 ・人それぞれの感じ方あり、いろいろな意見をきく中で、音楽の聴き方を更に深めるために意見交換を行っていることを確認する。
終結	4 本時の目標を振り返る	○本時目標に対しての振り返りになるよう確認する。	

<成果と課題>

・同じ音楽でも、指揮者の解釈の違いで、強弱, 速度, 音色が変わり、曲の感じも変わってくる。そういう違いを味わうことも大切だということを伝えたところ、生徒それぞれの感じ方も発見できた。意見交流をすることで、他者の感じ方を知り、自分の価値意識を再確認することで、さまざまな音楽のよさや美しさを味わえる感性を今後もそだてていくことが大切だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立鶴が丘中学校		授業者 煙山 真由美	
題材名 同時代の諸外国の音楽と日本の音楽を味わおう			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> オペラや歌舞伎の特徴について理解する。 【知識・技能】 旋律、音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことを関係付けながら聴く。 【思考・判断・表現】 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	<p>視点1 Chromebookに音源を入れ、個人で曲を繰り返し聴き、曲の特徴に気付かせる。</p> <p>視点2 ワークシートに自他の考えを共有できる枠を設ける。学び合いで互いの意見を共有し、参考になった他者の意見をワークシートに記述し、理解を深める。</p> <p>視点3 外国と日本の音楽的特徴や、音楽的特徴の異なる場面を鑑賞する。旋律、音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことを関係付けながら聴き、それぞれの音楽のよさや美しさを味わう。</p>	
	本時ねらいと視点	日時 令和3年12月15日(水) 指導学級 2年1組	ねらい 「アイダ」の2つの場面の音楽の特徴を知覚し、感受したことと関係付けて鑑賞する。自他の考えを共有し、音楽のよさや美しさを味わう。
			視点 ①・②・③
II 指導 過程	導入	学習活動 ①前時に鑑賞した第2幕第2場を振り返り本時の学習内容を提示する。	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】 ①音楽を形づくっている要素(旋律、音色、テクスチュア)を中心に鑑賞するよう指示をする。
	展開	②第2幕「凱旋の場」をDVDで鑑賞する。 ③「凱旋の場」の音源を各自で聴き、諸要素を知覚し雰囲気を感じる。 ④「凱旋の場」の音楽の特徴とその効果について、考えを発表する。 ⑤第3幕「おお、我が故郷」をDVDで鑑賞する。 ⑥「おお、我が故郷」の音源を各自で聴き、諸要素を知覚し、雰囲気を感じる。 ⑦「おお、我が故郷」の音楽の特徴とその雰囲気について、考えを発表する。	③生徒一人1台のchromebookを活用し、曲を繰り返し聴いてその特徴に気付かせ、ワークシートに記述する。【視点1】 ④「音楽の特徴」と「その特徴で何を伝えたいのか」を関連付けて発表させる。互いの意見を共有し、参考になった他者の意見をワークシートに記述し、理解を深める。【視点2】 ⑥曲を繰り返し聴いてその特徴や「凱旋の場」との違いに気付かせ、ワークシートに記述する。【視点1】 ⑦「音楽の特徴」と「その特徴で何を伝えたいのか」を関連付けて発表させる。互いの意見を共有し、参考になった他者の意見をワークシートに記述し、理解を深める。【視点2】
	終結	○本時の学習について振り返り、自己評価表に記入する。	

＜成果と課題＞

音楽の特徴の異なる2つの場面を鑑賞したことで、音楽的特徴を知覚する力が身に付いた。学び合いを通して生徒それぞれが感受したことを知ることができ、自分の考えを表現する力が身に付いた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立寺岡中学校		授業者 星澤 亜紀子	
題材名 創ったリズムで和太鼓アンサンブルに取り組もう			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作するための基本的な事項を身に付けさせる。 【知識・技能】 ・ アンサンブルの内容を考え工夫させる。 【思考・判断・表現】 ・ 自ら演奏するためのリズム創作し、演奏に生かす。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	自分が創ったリズムを手拍子と和太鼓でたたけるようにする。
		視点2	持ち寄ったリズムをどうやって重ねて曲を組み立てるか、グループで話し合う場面を設定する。
		視点3	グループ毎に、強弱やイメージを膨らませて、どんな演奏にするかを話し合う
本時 ねらいと 視点	日時	令和 3年 12月 3日 (金)	指導学級 3年 5組
	ねらい	創作したリズムでどんな表現ができるか話し合っ、練習をする	
		視点 1・2・3	
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	・ 前時までにつくったリズムを手拍子でたたけるようにする。	◎創作したリズムを正しくたたくことができるよう 机間指導で声を掛ける。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループに分かれてリズムの重ね方を話し合っ、アンサンブルの設計図（楽譜）を作る。 ・ 設計図が完成したら、表現の工夫を考える。 ・ 強弱・曲に対するイメージを話し合う。 ・ 手拍子でリズムの重なりや強弱を確認し、練習する。その後、和太鼓で練習する。 	◎リズムアンサンブルの完成を目指しより細かい部分を考えさせるため、教師側からの指示を工夫する（視点2 視点3） ☆全員でたたか一人でたたか（独奏・合奏） ☆強弱をどうするか （単に音量の増減なのか人数の増減なのか） ☆曲全体のイメージをどうするか。 （どのような音色で演奏するか）
	終結	・ 今日の練習の内容を振り返り次時の演奏に生かす。	◎実際、演奏を発表する時間に向けて、楽譜に表現の工夫を記入しておくよう指導する。

<成果と課題>

◎和太鼓を演奏する活動に意欲的に取り組む様子が見られた。

◎音量について、強弱、音色についてより深く考えることができた。

◎簡単な創作活動に取り組み、演奏するおもしろさを体感させることができた。

△創作に必要な時間と、和太鼓アンサンブルを組み立てるための設計図（楽譜）作りに時間がかかり、

練習時間を捻出するのが難しかった。（鑑賞分野との時数の兼ね合い）

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		富沢中学校	授業者 中川 耀太	
題材名 シューベルトの工夫について研究をしよう！				
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長調と短調の雰囲気の違いを知覚し、曲調との関わりについて理解する【知識・技能】 ・「魔王」の音楽的な特徴と曲想との関わりを考える【思考・判断・表現】 ・「魔王」の良さや工夫について視点を変えて繰り返し聴き、より深く味わおうとしている【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1	クロームブックを活用し、各自の必要性に応じて繰り返し曲を鑑賞できるようにする。	
		視点2	ねらいに迫るための視点を各自で選び、分析・予想した内容を共有し考えを広げる。	
視点3	各自が分析して得た知識と他の生徒や教師から得た新たな視点を持って、再度鑑賞することで考えを深める。			
本時 (4/4) ねらいと 視点	日時	令和 4年 1月 24日 (月)	指導学級 1年 7組	
	ねらい	長調と短調が生み出す曲調の違いを感じ取り、「魔王」の怖さを味わおう。	視点 1・2・③	
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	1 2つのカエルの歌を聴き、感想を発表する。 「短調の方が暗い感じ」	・長調と短調のカエルの歌を聴かせ、長調や短調が持つ雰囲気の違いを説明させる。	
	展 開	2 「魔王」のパートごとの曲調を聴き取りワークシートに記入する。 (視点③)	<ul style="list-style-type: none"> ・長調や短調がわかりやすいようピアノソロ版の音源を用意する。 ・曲調は「明」か「暗」で記入させる。 ・動画についているテロップを参考にしてどの登場人物のパートかを判断させる。 ・各生徒が自分の研究、意見の共有を終え魔王の登場人物ごとの音高の変化や伴奏の変化、テンポや強弱のと曲調の関わりを理解した上で、「調性」という視点を与え鑑賞させる。 	
		3 魔王パートが明るく穏やかな理由を考える。(視点③)		
	開	「一番最初に感じたことを聞いた時、君たちは怖い！暗い！としか言わなかったけど、		
		「息子を誘惑するため」 「優しさを表し余裕感を出すため」 「怖がっている息子父親をあざ笑ってる」 「より不気味感をだすため」	<ul style="list-style-type: none"> ・答え方の形式を示し、答えを考えさせる。 「シューベルトが魔王のパートを明るくしたのは（ ）を表すためだと思います。なぜなら、~~~~~」 ・互いの考えを検討し合い、より説得力のある意見にまとめるよう指示する。 	
終 結	5 班でまとめた意見を全体で共有する。	・ホワイトボードに各班の意見をまとめさせ、根拠と共に発表させる。		
	6 色々な短調の曲を聴く	・様々な短調の曲を聞かせ、視野を広げる。「ルパン三世のテーマ」「行くぜ！怪盗少女」など。		

<成果と課題>

中心発問の答えを出すために自ら視点を選び、分析し情報収集を行わせるため今回の授業を作った。この題材の中心発問は「Erlkönig が日本で魔王と訳された理由を考えよう」だ。生徒たちには、各登場人物のパートが分割されている CD をそのままクラスルームのストリームに投稿し、そこから研究をさせた。研究の例文を用意したり、分析の仕方のコツを用意したりして生徒自ら研究できるように準備をした。その結果、7割の生徒は自ら音楽の要素と曲調を結びつけて考え、分析することが出来た。

本時の授業は+αとして考えた。「魔王」における最大の工夫として魔王パートの「長→短」があり、それは魔王の恐ろしさを表すための音楽表現を超えた心理誘導のようなものだ。そこで、ねらいを「長調と短調が生み出す曲調の違いを感じ取り、「魔王」の怖さを味わおう」にした。視点3の「各自が分析して得た知識と他の生徒や教師から得た新たな視点を持って、再度鑑賞することで考えを深める。」により前時までの各自の分析と長調短調という視点で考えを深めさせようとした。

成果

・題材の導入で書かせた感想では「怖い」や「暗い」、「激しい」といった感じの直接的な文言が多かったのに対し、本時の感想では「魔王が子供を誘う感じで歌っていてより怖さを出している」や「魔王が弱く優しい感じで不気味さを出している」など怖さの種類や状況までを考えた感想になっていた。

課題

・考えたことがうまく言葉に出来ず、深まりが見とれなかった生徒がいた。感想を文章で書くだけでなく他の方法（絵を描く、プレゼンテーションにする等）で考えを表現する方法を工夫したい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立茂庭台中学校	授業者 伊藤 香恵
題材名 「曲の雰囲気合った表現を工夫しよう」			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1（主体的な学びを実現するための工夫）	授業のねらいを黒板やワークシートに明記することで目標を持ち、最後に自己評価カードで個人の振り返りをする。学びの過程が分かるようにする。
		視点2（対話的な学びを実現するための工夫）	ペアやグループで互いの考えを共有する場面を多く取り入れ、考えを深められるようにする。
	視点3（深い学びを実現するための工夫）	意図的な指名を行い、全体で学びを深められるようにする。また、視聴覚機器やICT機器を活用して、音楽のよさや美しさを味わう機会を増やす。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和 3年 11月 30日（火）	指導学級 2年 2組
	ねらい	曲にふさわしい音楽表現を工夫する。	
			視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1 前時を振り返り、箏で「荒城の月」を演奏する。 2 本時の目標と流れを確認する。	視点1 授業のねらいを黒板とワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な奏法について確認する。 ・教師の模範演奏の後、「荒城の月」を演奏する。
	展開	3 「荒城の月」の歌唱CDを聴いてイメージを膨らませる。 4 歌詞の意味を確認し、作者の心情を想像する。 5 歌詞や曲の雰囲気を伝えるためにどのように演奏を工夫するか考える。 6 箏を弾いて試す。	視点2・視点3 ペアで互いの考えを共有した後に、意図的な指名を行い全体でも共有して、イメージを広げたり考えを深めたりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉のみヒントを与え、なるべく生徒に考えさせ発言させる。言葉の意味だけでなく、作者の気持ちも合わせて想像させる。 ・まず個人で考えさせ、途中でいくつか例を提示する。 視点2 ペアで互いの考えを共有し、新たな発見をしたり考えを深めたりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏して試す際に机間指導をして、工夫点を音で表現できるようにアドバイスする。 ・ペアでも互いの演奏にアドバイスし合う。
	終結	7 自己評価カードを使って、個人で振り返りをする。	自己評価カードで個人の振り返りをする。生徒のつまづきや学びの過程が分かるようにする。

＜成果と課題＞

成果：基礎的な奏法を確認することで演奏を正しくスムーズに行うことができた。歌唱CDを聴き歌詞の意味を考えることで、曲のイメージが広がり、演奏表現の工夫につながられる生徒が多かった。
 課題：5の演奏の工夫点の例と、6の箏で演奏する際の音の出し方の例について、それぞれの場面で提示したが、「～という工夫をするために〇〇のような音で演奏する」というように5と6をセットにして例を提示した方が生徒にとって分かりやすかったかもしれない。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立住吉台中学校	授業者 田中 真紀
題材名 イメージを音楽で表現しよう ～箏曲「さくらさくら」の前奏づくり～			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方や奏法の特徴を理解し、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な音や奏法の選択、組合せなどの技能を身に付けている。【知識・技能】 箏の奏法と音色との関わりを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。【思考・判断・表現】 箏の音色や奏法に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	箏の奏法と音色との関わりについて学習し、自分のタイミングで学習を振り返ることができるようタブレットを効果的に活用する。
		視点2	互いの考えを交流して学習を進めていくことができるよう学習環境を整えとともに、個に応じた学習支援をするために付箋を活用する。
視点3		音楽的な見方・考え方を働かせ、学習を進めていくことができるようワークシートを工夫するとともに、「なぜ？」と問いかけることを通し深く考えさせる。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年1月24日(月)	指導学級 2年 1組
	ねらい	自分がイメージする桜の様子や情景を箏の音色や奏法を生かして表現することができる	視点 1・②・③
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1. 「さくらさくら」を演奏する。	○基本の姿勢や構え方、奏法を意識させる。
	展開	2. 本時のねらいを確認する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分がイメージする桜の様子や情景を箏の音色や奏法を生かして表現しよう</div> 3. 前時の学習から、いくつかの例を紹介する。 4. イメージにあった音の組み合わせ方や奏法を試しながら創作する。	○音色や奏法がイメージとどう結び付いているのかを解説する。 ◎ワークシートの付箋を活用しながら、生徒が考えを整理できるよう支援していく。 ◎「なぜ？」と問いかけることにより、生徒が十分に音楽的な見方や考え方を働かせることができるようにする。 ○創作が進まない生徒には、「静かなイメージなら、音の数は多い？少ない？」「音色はやわらかい？」等具体的にヒントを与える。
終結	5. 本時の振り返りと次時の見通しをもつ	○次時は「さくらさくら」の曲とのつながりはどうか修正を加え、発表の準備をすることを伝える。	

＜成果と課題＞

一人ひとりが前奏を完成させようと試行錯誤しながら真剣に臨んでいた。同じ奏法でも弾き方や弾く位置によって音色の違いがあり、必要に応じてタブレットで確認させることができた。イメージが定まらない中での使用は長時間になりがちで、その点は課題だと感じた。タブレット使用のタイミングを限定することと、前段階の奏法の学習で、音色や効果等についてしっかりと全体で共有することが不可欠だと感じた。また、ワークシートにアドバイスを書いた付箋を貼ることにより、個に応じた学習支援を効果的に行うことができた。「なぜ？」と問いかけることで、選んだ音とイメージがより明確な結びつきとなり、音楽的な見方や考え方を働かせることにつながった。自由度が高い分、時間内に考えがまとまらない生徒もいて、入りや終わりの音を限定するなどの手立てが必要だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名 仙台市立南吉成中学校		授業者 山崎 郁絵			
題材名 「もみじ」の曲想を感じ取り、創意工夫しながらふさわしい音楽表現で演奏できるようになる					
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法を身に付け、演奏表現できるようにする。【知識・技能】 ・「もみじ」の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 ・「もみじ」の曲想を感じ取ることやリコーダーの基本的な奏法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に学習に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の視点	視点1	本教材にかかる授業時数を事前に伝えることで見通しを持たせ、毎回の授業で自己評価カードに反省を記入することで振り返りをさせる。		
		視点2	運指を生徒同士で教え合う場面を設けたり、思いや意図を記入したワークシートを見せ合うことで創意工夫した表現を共有したりする。		
視点3		個人で練習する場面と、教師が全体指導する場面とを交互に設け、全体指導でできなかったことを自分で振り返り、原因を探りながら練習させる。			
本時 ねらいと 視点	日時	令和 3年 10月 29日 (金)	指導学級	2年 2組	
	ねらい	「もみじ」の運指を覚え、スムーズに指を動かすことができるようになる。			視点 1・2・3
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認。 ・「もみじ」で使用する運指を復習。 ・「もみじ」を階名唱で確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～8小節目までという具体的な目標を伝える。 ・2年生になってから新しく学ぶ運指について1つずつ確認し、つまずきがないよう留意する。 		
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「もみじ」の1～8小節目の運指を全体で通し練習。 ・個人で練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師主導で、全体の出来具合を見ながら、遅めのテンポで通し練習する。1度でできなければ2度行う。 ・時間を決め、見通しを持たせる。 ・運指が分からない生徒には机間巡視で運指表の見方を教えたり、生徒同士で教え合う場面を設けたりする。 		
	終結	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、全体で通し練習。 ・個人で練習。 ・最後に1度、全体で通し練習。 ・自己評価カードに反省を記入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて、9小節目以降にも挑戦させる。 ・習熟度に応じて、9小節目以降も行う。 ・本時の反省を踏まえ、次時への課題も考えて記入させる。 		

<成果と課題>

成果： 目標をスモールステップに設定することで、生徒の苦手意識を減らし、学習意欲を高めることができた。(自己評価カードより)

感染症対策のために運指練習と演奏練習の時間を分けたが、運指練習に集中することで、段階を踏んだ指導をより丁寧にすることができた。

課題： 習熟度に差があるため、早い段階で目標を達成する生徒への対応が必要になる。感染対策のために演奏練習以外の活動となることから、楽曲を複数用意することや、支援が必要な生徒に教える仕組みをつくり徹底させるなどの方法を考えたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立松陵中学校		授業者 越坂泰彦	
題材名 アルトリコーダーの響きに親しむ			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 運指を覚え、堂々と演奏する 強弱を工夫し、適切な音色とタンギングで演奏する 自分に合った難易度を選択し、積極的に演奏に取り組む 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】
	研究の視点	視点1	楽譜から様々な情報を引き出し、演奏に生かさせる。
		視点2	演奏に必要な技術を習得し、完成度の高い演奏を目指させる。
		視点3	人前で堂々と演奏し、達成感を味わわせる。
本時ねらいと視点	日時 令和4年1月27日(木)	指導学級 3年 1組	視点 1・②・③
II 指導過程	ねらい	旋律の美しさを味わい、演奏に生かす	
	導入	学習活動 ○「威風堂々」のトリオの旋律の一部を聴く ○プロムスラストナイトの「威風堂々」を視聴し、感想を書く	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】 ○いつの場面で聴くことが多いか。 △反応 「あらたまった場」「卒業式」「入学式」 ○人々がこの曲を愛し、愛国心を全身で表現している様子に気付かせる。 【評価】感想作文
	展開	○楽譜を配付し、階名唱をする ○運指を確認する 1点嬰へ 2点ニ 2点ホ 2点へ ○音取りをする ○超上級・上級・中級・初級の違いを確認する 超上級：2括弧を1オクターヴ上げる 上級：全曲演奏 中級：1括弧を省略する 初級：演奏の映像を見ながら演奏	○階名を記入させる。 △反応 タイの後ろの音にも階名をふってしまう ○サミングのすき間の幅に注意させる。 タンギングを少し鋭くさせる。 △反応 高音がうまく出せない→サミングの幅やタンギングを工夫させる。 ○テレビに運指を投影する。運指は音を出す直前に提示し、演奏しやすくする。 ○自信がない生徒は教師の運指を見ながら演奏させる。 △反応 運指ができない→教師が椅子の上に立ち、運指ができていない生徒を発見し、難しいフレーズを取り上げて反復練習させる。 【評価】運指のスムーズさ・・・観察による
	終結	○全員でピアノ伴奏付きで演奏する	○自信がない生徒には上手な生徒の指を見させて演奏させる。

＜成果と課題＞

自分に適した難易度を選択させることにより、達成感を味わわせることができた。後日に行う演奏試験では、難易度により設定点数に差を付け、そこから減点制にするのだが、果たしてこのような方法でよいのか疑問が残る。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立広陵中学校		授業者 齋藤 馨		
題材名 「曲が生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら聴こう」				
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルタバの音楽の特徴とその背景となるチェコの文化や歴史との関わりについて理解する。 【知識・技能】 ・ブルタバの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【思考・判断・表現】 ・ブルタバの音楽の特徴とその背景となるチェコの文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1	まとめの段階で自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。	
		視点2	対話によって自他の意見を共有し、音楽語彙を獲得したりしながら、自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。	
視点3		生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができるような発問の工夫、声かけを行う。		
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年 1月 17日 (月)	指導学級 3年 1組	
	ねらい	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解し、生活や社会における音楽の役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	視点 ①・2・3	
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・前時までの確認 ・学習課題の確認 <p>曲が作られた背景～スメタナがこの曲に込めた思いとは？～</p>		
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・主体とFを比較聴取する。 ・曲が作られた時代背景について知る。 ・主題とFの音楽の違いにこめられた作者の思いについて考える。 (1) スメタナがこの曲にこめた思い (2) チェコの人々にとってこの曲はどのような存在だったか 個人→話し合い→発表 ・作者への手紙を書く 	<p>調性・速度の変化について着目させ、雰囲気の違いを感じ取らせる。</p> <p>母国語が話せない中で、情景や生き様を音楽で細かく描写した曲であることを再度伝える。 個人で考えをまとめ記述する時間を確保する。 グループで意見を共有しながら深め、発表させる。 ◆ブルタバの音楽の特徴とその背景となるチェコの文化や歴史との関わりについて理解している。 【活動観察・記述分析】</p> <p>【これまでの学びを振り返り、自分自身の言葉でこの曲の魅力や価値についてまとめさせる。】 ◆生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【思記述分析】</p>	
	終結	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を通して聴く ・振り返り 	これまでの学びや発見、感動を振り返りながら聴く。	

<成果と課題>

成果・・・自らの学習を振り返り、自身の言葉でこの曲の魅力や価値についてまとめられていた。作曲者に向けて手紙を書くことで、より作者の立場に立った「思い」や「感情」に迫ることができた。

課題・・・当時のチェコの情勢を正しく理解できていない生徒が見られた。映像やスライド等で簡潔にまとめ視覚的にアプローチしていきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立袋原中学校	授業者 三浦 依理
題材名 詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取って聴こう			
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔王」の曲想と音楽の構造や詩の内容との関わりを理解する。【知識・技能】 ・「魔王」の音色，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 ・「魔王」の旋律の雰囲気や登場人物ごとの歌い方の工夫に関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の 視点	視点1 「主体的な学び」の視点から	音楽を形づくっている要素を3つに絞ることで，自ら感じ取ったことを言語化できるようにする。
		視点2 「対話的な学び」の視点	班活動で意見交換の場を設け，互いの考えを共有させる。
視点3 「深い学び」の視点		Chromebook の jamboard を活用し他の班の意見から学ぶことで，自己の表現したい思いを，より具体的に言語化できるようにする。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和 4年 1月 25日 (火)	指導学級 1年 3組
	ねらい	それぞれの登場人物の歌い方の工夫について，曲想と詩の内容から考える	視点 ①・②・3
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1 前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物について ・歌っている人数について ・それぞれの印象について 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に Chromebook の jamboard にまとめた意見をテレビに映し出す。
	展開	2 登場人物ごとの歌い方の工夫について，曲想と詩の内容から考え，音楽を形づくっている要素を用いて，ワークシートにまとめる。 3 個人で聴きとったことを，班で発表し，共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・班で選択した子か魔王についての意見を発表する。 ・選択した登場人物について出た意見を，Chromebook の jamboard にまとめる。 	視点1 <ul style="list-style-type: none"> ・特に，声の音色，旋律，強弱の3つの要素を中心に考えさせる。 ・要素の働きと歌詞の内容が結びつくように記述するように指示する。 <評価思> 「魔王」の音色，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 視点2 <ul style="list-style-type: none"> ・班長が司会を務め，全員が意見を発表したあと，jamboard に意見をまとめるように声がけする。 <評価態> 「魔王」の旋律の雰囲気や登場人物ごとの歌い方の工夫に関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
終結	○他の班の意見を見て，学びを深める。 ○個人のふりかえりプリントの記入をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・各自の jamboard で各班の意見を見る。 ・次時は各班に共通する意見を見つけ，歌い方の工夫について，全体で学ぶことを予告する。

<成果と課題>

教科研究会で学んだ Chromebook の jamboard の活用を実践したく，同題材で授業実践を行った。生徒からは，これまでより多くの意見の共有ができて，学びが深まったとの感想が見られた。今回は全体で音源を聴かせることしかできなかったため，個人で音源を聴けるようにするためにイヤホン等の整備を進めていきたい。今後も効果的な Chromebook の活用について学び，生徒の意欲が高まるような授業を目指していきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立沖野中学校		授業者 本間 まり子	
題材名 イタリア民謡の特徴を理解し、曲想を生かして表現豊かに歌う			
I 授業の 構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識・技能】 ・速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。【思考・判断・表現】 ・歌詞が表す情景や心情及び同主調の表情や味わいに関心をもち、イタリア民謡の情熱的で表現豊かな歌唱表現を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	鍵盤楽器、CD、動画を活用して主体的に学ぶ。録画して自分の変容を気づけるようにする。
		視点2	小グループで練習し、ワークシートや教師の指導をもとに技術・表現の向上を目指す。
視点3		前半部・中間部・後半部に分けてそれぞれの曲想やふさわしい歌い方を考えさせる。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和3年11月8日(月)	指導学級 3年1組
	ねらい	イタリア民謡を表現豊かに歌い上げよう	
		視点 ①・②・③	
II 指導過程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1 前時の復習として前半部分と中間部を歌う。	・歌詞を板書。前半部分は短調。中間部分は長調。それぞれ表現したいことを意識させる。
		2 ねらいを確認する。 3 後半部分「いまはただ一人」から最後まで、ピアノで音取りをする。	○暗譜で良い姿勢で歌わせる。 ○記号の意味をプリントで確認する。 ○フェルマータのついている音を比較させるなどして、同じ記号でも表現したいことが違うことに気付かせる。
		4 2名程度のグループで練習し、表現豊かに歌うためのコツを探る。 5 模範演奏(動画)を参考にして、身体のどの部分を意識すると良いか考え、4人グループで話し合う。 6 5で話し合ったことを意識しながら、1人1台 chrome book を活用して、録音しながら練習する。	・鍵盤楽器、CD、You Tube 動画を活用し練習させる。 ・机間巡視しながら、表現するために身体をどう使って歌うかを指導する。【思考・判断・表現】観察・ワークシート ◇上半身のどの部分を意識するといいたいと思いますか。 ◇自分の歌い方と比較してどうですか。 ○上半身と音声がかうまく録画できるよう指示する。 【知識・技能】観察・演奏
終結	7 授業の振り返りをする。	○ワークブックに振り返りを記入させる。	

<成果と課題>

1時間目は3～4人程度のグループから、授業を重ねるごとに徐々に個々へと学習の形態を変えたことで、仲間の意見や工夫を参考にしながら自分の表現を追究する学習を行うことができた。ICTを活用し、イタリアの映像を見せて曲のイメージをふくらませ、様々な動画と自分たちの演奏を比較したりしたことで、歌い方や身体の使い方が視覚的に理解しやすかった。課題としては、自分の録音を客観的に聴いたり、比較したりすることは効果的だと考えるが、録音の環境状況やネットワークの状況などの課題が大きいと感じた。また、歌う技能の差は大きいので、学校で学んだことを家庭で chrome book などで繰り返し学習させることは効果があると思う。今回、人前で歌うことを苦手とする生徒は chrome book の録音を提出してもらい、評価することができたが、同時に生演奏の良さも伝えていかなければならないと思った。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立北仙台中学校		授業者 山口景子		
題材名 歌舞伎 ～日本の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう～				
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考、判断、表現】 ・歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1 主体的な学びを実現するための工夫 → 活動の細分化 活動を細かく分けて、特質や雰囲気を感じできるように工夫する。		
		視点2 対話的な学びを実現するための工夫 → 共有と共感のある活動と振り返り → 価値意識を更新したり、広げたりしていく過程を大切に学習構成を工夫する。		
視点3 深い学びを実現するための工夫 → ICT機器の効果的な活用 自作教材を活用する。パワーポイント(P.P)で示す。				
本時 ねらいと 視点	日時 令和 3年 11月 26日(金) 3校時 指導学級 2年2組 令和 3年 11月 29日(月) 3校時 2年3組			
	ねらい 日本を代表する伝統的な演劇の一つである歌舞伎の上演形態や歴史について知り、歌舞伎の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深める。【知識】【主体的に学習に取り組む態度】	視点 ①・2・③		
II 指導 過程	学習活動(本時 第2次)		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	1. 本時のねらいの確認 「歌舞伎～日本の伝統芸能に親しみ そのよさを味わおう～」 ・自分の生活と関わらせながら 我が国の伝統文化に親しむ。	見通し、関心をもたせる ・学習目標を提示し、前時の振り返りをする。 比較させる 結び付ける ・「歌舞伎の成り立ち」、「歌舞伎座の歴史」、「役者」、 「歌舞伎が語源となっている言葉」について知る。 → P.Pを用いて提示し、興味・関心をもたせる。	
	展 開	2. 鑑賞 活動の細分化 ・歌舞伎で用いる楽器や 音楽について知る。 ・音色から情景のイメージ を広げる。 ・歌舞伎の魅力を知る。 ○×クイズ ICT機器の効果的な活用 パワーポイント(P.P) 自作教材を活用する。 ・歌舞伎の特徴を生かした 現代のコントを見る。	・下座音楽の情景描写を聴き、歌舞伎特有の表現や和楽器の音 色を味わう。 → 音からイメージしやすいように画像を示す。 ・囃子と唱歌について知る。 →「間」など、師匠から弟子に伝えられてきたもの。 新しい捉え方、よさに気付かせる ・歌舞伎の魅力を知る。 → 前時に鑑賞した「勸進帳」とは違う歌舞伎の魅力 を知ること、歴史ある文化でありながら、様々な 変化を遂げて発展しているということを学ばせる。 身近なものという実感をもたせることで、主体的 に学習に取り組む態度を養う。 ・歌舞伎の特徴や特有の表現を理解してから見ることで おもしろさや魅力が分かる。 → 江戸時代の庶民にとって、歌舞伎は娯楽だった ということを理解させる。	
	終 結	3. まとめ ・プリントのまとめ B 鑑賞 (1) 鑑賞 イ (イ)	自分の考えや感じ方の変化を比較し、深める ・プリントに鑑賞の感想を書く。 ・次回も、○×クイズと鑑賞を通して、歌舞伎の魅力に迫る。	

＜成果と課題＞

成果は、広く深く教材研究を行い、様々な角度からアプローチして、記憶に残る授業を目指せた。歌舞伎の魅力を感じたことで、生徒に興味・関心をもたせることができ、「これも歌舞伎と関係があるのかな。いつか歌舞伎座に行ってみよう。」と考え、自分の生活と関わらせながら親しむことにつながった。

課題は、提示する内容量が増え、音楽の要素以外の文化や歴史に関わるものが多くなったことである。また、現代の話題を取り入れているため、毎年情報を更新していく必要があると感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立折立中学校		授業者 阿部 紗也加	
題材名 合唱「時を越えて」を歌おう。			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に書いてある音楽記号・用語の意味を理解して、心を込めて歌おう【知識・技能】 ・ハーモニーが良くなる方法を考え、声や表情で表現しよう【思考・判断・表現】 ・皆で協力し合い、曲にふさわしい曲想を考えよう <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</p>	
	研究の視点	視点1	パート練習で chromebook を活用し、生徒の歌っている姿を「録画しては見る」を繰り返す。
		視点2	視点1での活動中に、パート内で話し合う時間を作り、どうすればもっと良くなるのかを生徒内で深めさせる。
視点3		音楽記号・用語などから、音楽的な見方・考え方を教員が引き出し、その上でどう歌うべきなのか生徒に考えさせる。	
本 時 ねらいと 視点	日時	令和 4年 1月 13日 (木)	指導学級 3年 3組
	ねらい	パート練習で、自分のパートのハーモニーを良くするために必要なことを話し合い、演奏に生かそう。	視点 ①・②・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	発声練習 ・ストレッチ・「あえいおう(腹式呼吸とロングトーン練習)」「なまみ(スラー・強弱の練習)」「ドミレファ(早口の練習)」をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う前に、体を良くほぐす。 ・声出しは丁寧に行う。 ・歌うときの姿勢・呼吸・視線・立ち方などは常に指導していく。 <p>【パート練習で歌う音域まで声出しさせ、喉が開いた状態になるようにする。】</p>
	展 開	パートに分かれて練習 ① はじめはCDを聴く。 ② chromebook で、自分のパートの歌っている様子を撮影する。 ③ 撮影した動画をパートで見て、楽譜を見ながらパート内で改善するところを話し合い、楽譜に記入する。 ④ ②・③を繰り返す。	<p>① ・はじめにCDを聴き、手本を確認する。 【鼻濁音やハ行の発音が難しいところには印を付けさせる。】</p> <p>② フレーズごとに切って歌うなどの工夫をすると細かく練習できる、等の方法を促す。</p> <p>③ 楽譜と合わせて見たときに、発音・強弱・曲想の工夫に視点を置いて話し合いができるよう促し、楽譜にも書き込ませる。 【パートリーダー以外の人も積極的に話せるよう、時計回りに意見を言うなどの工夫をさせる。】</p>
	終 結	<ul style="list-style-type: none"> ・パートごと、他のパートの前で発表し、意見交換をする。 <p>・まとめ 本時のまとめを学習カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートの歌を他の生徒の前で緊張感を持って発表させる。他のパートを聴くときは、ワークシートに他のパートの良かった点・改善点(具体的に)を書かせる。 <p>【改善点を自ら見つけ、それをよくするための方法を考えさせる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業の感想を学習カードに記入させ、事故の振り返りを行う。

<成果と課題>

本時のねらいと題材の関わりについては、視点1の「chromebookの活用」と結びついていて、自分が歌っている姿やパート内のハーモニー・姿勢や表情などを細かく見ることができる。また、「ハーモニーをよくするために話し合う」というねらいが視点2と結びつき、教員の少しの引き出しで、生徒が自らの力で自分たちのパートを良くする方法を探究することにつながる。

コロナウイルス感染拡大の影響で合唱指導が滞っている今、この授業を実践することができなかったのだが、chromebookの活用をポイントとし、それぞれのパートのハーモニーを客観的に聴き、改善していく場面を作るのに効果的な授業だと思うので、実践できる機会があれば是非挑戦したい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立高森中学校		授業者 田原 久美	
題材名 パートの役割を理解して、歌唱表現を工夫しよう (合唱曲「青い鳥」)			
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 全体の響きや各声部の声などを聴きながら歌う技能を身に付ける。 【知識・技能】 テクスチュア，強弱などを知覚し，それらが生み出す雰囲気を感じながら，ふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 【思考・判断・表現】 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の 視点	<p>視点1 パート練習を通して計画を立てたり，振り返りを行ったりすることによって，変容を自覚できるようにする。録音機器などを効果的に使用する。</p> <p>視点2 パート内で意見交換する場面を設定し，自分の考えを伝えたり，他者の考えを共有したりすることによって，表現を深めていくようにする。</p> <p>視点3 パート内での新しい気づきや意見を全体の場で共有することによって，考えを深め，次時の演奏につながるようにしていくようにする。</p>	
	本時 ねらい と 視点	日時 令和3年7月6日(火)	指導学級 3年3組
		歌詞の意味や心情を音楽的な要素と結びつけて考え，表現を工夫しよう	視点 1・②・③
II 指導 過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時に思考した心情の高まりを感じる部分について全体で確認する。 本時の目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを先に提示することで，やることを明確化する。
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> パートでの活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問いかけ① なぜその部分に心情の高まりを感じるのかその理由を考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 全体での共有(各パート発表) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問いかけ② どのように歌えば心情の高まりを表現できるのか，その部分の前後のつながりも含めて考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 各パートで実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことを伝え合うことで共感したり，相手の意見に対して反応を返したりしている。(行動観察) 各パートの意見に共感したり，反応を返したりしている。(行動観察・ワークシートの記述) 巡視を行い，様子をみて歌詞の内容，音楽記号，他パートとの関わりについてもヒントを与える。 自分たちのイメージを伝えるための工夫を考えさせる。
	終 結	<ul style="list-style-type: none"> 全体での共有 各パートで考えた表現の工夫点について発表する。 感動で涙ながらに合唱した千葉県の中学生在が合唱した「青い鳥」を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの意見に共感したり，反応を返したりしている。(行動観察・ワークシートの記述) 音楽はとらえ方や感じ方によって様々な表現方法があることを知り，自分たちで考えた工夫点を大切にしながら思いを持って歌い上げていくよう伝える。

＜成果と課題＞

3年生ともなると最後の合唱コンクールにかかる熱い思いも加わり，試行錯誤しながら合唱をさらによりよいものにしていく姿勢が見られた。また，パート活動の中でテーマを絞って提示したことにより，対話が深まり，活発な意見交換が生まれた。事前にパートリーダーに進め方を確認しておいたこともスムーズな進行につながった。しかし，表現分野が苦手な生徒は各学級に必ず存在しており，その生徒に対して，今後どのような声かけや指導を行っていけばよいか課題として残った。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立東華中学校		授業者 佐藤 美由紀	
題材名 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう 「荒城の月」			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 「荒城の月」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【知識・技能】 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する。 【思考・判断・表現】 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	主体的な学び
		視点2	対話的な学び
		視点3	深い学び
本時ねらいと視点	日時 令和4年1月20日(木)	指導学級 2年3組	ねらい 創意工夫を生かして「荒城の月」を歌う。 視点 ① 2・3
II 指 導 過 程	導入5	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	展開35	<ul style="list-style-type: none"> 前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「主体的な学び」について本題材の学習内容に関心をもてるように工夫し、本題材の目標の実現に向けて粘り強く取り組んでいるかを、継続的に把握する。
		<ul style="list-style-type: none"> どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったりしたところについて、ワークに加筆修正をする。(色ペンを使って加筆修正する) 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習やワークの記入内容も手掛かりにして考えるように助言する。 他者の意見で参考になるものやよいと感じたものは、色を変えて記入し、自分の意見と比較しながら考えを深めるように促す。
	終結10	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図と発声、鼻濁音などの言葉の発音、ブレスの仕方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に歌ってみて、工夫を感じ取るようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 「荒城の月」を学級全体で歌い、学習全体を振り返って、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や音楽の特徴に触れながら、実際の音楽表現を通して感じたことや考えたことをできるだけ具体的にまとめるように声掛けをする。 	

<成果と課題>

○1年時に学んだ「赤とんぼ」の言葉の抑揚と旋律の関係を思い出したり、個人やグループで独自に考えた曲想表現を取り入れたりしながら、生き生きと創意工夫のある表現をすることができた。

○テンポの工夫をした際にメトロノームを使用したけど、生徒だけだとなかなか変化をつかみにくい様子が見られたので、今後改善し他の曲でも生かしたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立桜丘中学校		授業者 鈴木静香		
題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、曲に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴こう。B鑑賞 (1)アとイ(ア), 共通事項(ア)				
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造を理解する。【知識】 「展覧会の絵」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 「展覧会の絵」の曲の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1「主体的な学び」の実現に向けての工夫点 仲間の発表を聞くことで、自分の考えとの相違点や共通点に気付かせる活動を取り入れる。		
		視点2「対話的な学び」の実現に向けての工夫点 ワークシートをもとに自分の意見を相互に伝えるグループ活動を取り入れる。		
視点3「深い学び」の実現に向けての工夫点 ワークシートを活用し、自分の考えを広げ、深められるような活動を取り入れる。				
本時ねらいと視点	日時 令和 4年 1月 18日 (火)	指導学級 3年 1組		
	ねらい 音楽の特徴とよさを捉えさせた紹介文を書かせ、プレゼンテーションさせる。		視点 ①・②・③	
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	1 前時を振り返る。 2 本時の目標と流れを確認する。	音楽の要素と雰囲気だけでなく、どのような場面や気持ちなど、自分の考えを加えることを説明する。	
	展開	音楽の特徴とよさを捉え、プレゼンテーションしよう		
		3 音楽を再度聴きながら紹介文を記入する。	<p>「音楽的な見方・考え方」を働かせて学びの深まりができるよう、机間指導しながら個別に助言していく。</p> <p>評価 「展覧会の絵」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠を考えている。【思】(ワークシート) 【Aと判断される姿】 「展覧会の絵」のよさや美しさについて、曲想と音楽の構造との関わりについて自分の考えを加えて詳細に書いている。 【Cへの手立て】 音楽の要素や雰囲気、または自分の考えなど不足している部分について考えることができるよう助言する。</p>	
		4 4人グループで意見交換をする。発表を聞くときにはメモをとる。	発表を聞くときのメモの取り方を説明する。自分の内容(音楽の要素と雰囲気について、それらに関わらせた自分の考えについて)との共通点と相違点に注目させる。	
	5 代表者の発表を聞く。発表を聞くときにはメモをとる。			
終結	6 振り返り用紙に記入する。	共通点や相違点、新たに考えたことについて書くように説明する。		

<成果と課題>

成果： 3年生になって出会った生徒たちで、このような紹介文を書くことを今まで経験してこなかったため、1学期の授業において1・2年生の復習という形で「音楽の要素と雰囲気」について学習を行ってきた。最初戸惑いはあったが、毎時間頑張る姿があり、今回の中学校最後の鑑賞では、それぞれが真剣に紹介文を書く姿が見られ成長を感じた。授業の成果としては、視点3の深い学びの時間をしっかり取ることができ、内容も充実させて書く生徒が多かったと感じた。また、視点2の話し合い活動においても、共通点や相違点に注目し、グループ活動に問い組ませることができた。

課題： 他の教科ではクロムブックを使うことが多くなっており、音楽の授業でも活用できないものか考えている。今回の紹介文もクロムブックで入力させることも可能だが、入力中の画面は小さく、助言することが難しい。また、提出させた後の返却もデータのみになると、確認しない場合が出てくるのではないかと思い、挑戦できずにいた。来年度はクロムブックを活用させられるか、再度考えながら授業展開を考えていきたい。

令和3年度 仙台市音楽教育研究会教育実践記録

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 宮城教育大学附属中学校		授業者 板橋 薫	
題材名 伴奏のリズムを考えて、セッションを楽しもう。			
授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【知識及び技能】 ギターの音色や伴奏のリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 【思考力、判断力、表現力等】 ギターの構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 	
	研究の視点	視点1	題材全体の目標や各時間の活動内容を生徒が理解し、見通しを持って学習に取り組むことができるよう、学習カード（振り返りシート）を活用する。
		視点2	弾き語りをする上でギターのリズムをどのように工夫するかを観点としながら自他の意見を伝え合わせるにより、自分の意見に確信を持ったり、他者の意見から新たな気付きを得たりしながら仲間と合奏を楽しむ雰囲気を作る。
視点3		次の2点について演奏方法を例示し、生徒に選択させたり新たに考えさせたりする。 ①コード奏のリズム（ギター）②コードの構成音から作るベースライン（鍵盤打楽器）	
本時 ねらいと視点	日時	令和3年 11月 30日	指導学級 2年 1組
	ねらい	弾き語りの練習を通して、曲の雰囲気に合った伴奏のリズムを考える。	視点1・②・3
指導過程 (本時2/4)		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 常時活動をする。 2 前時の復習をし、本時の学習課題を把握する。 	<ol style="list-style-type: none"> 2 学習カードを配布し、本時の目標と活動を把握させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習として G・Em・D・C の4つのコードの押さえ方を確認し、教材曲2曲の1番のみを一回ずつ歌わせる。
	展開	<ol style="list-style-type: none"> 3 ダウンストロークのみで練習し、コードを鳴らすタイミングを確認する。 4 アップストロークも入れながら、弾き語りの練習を通して、伴奏のリズムを考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 3 2,3人につきギター1本を用い、『Stand By Me』(Ben E.King)と『Dragon Night』(SEKAI NO OWARI)の弾き語りができるように練習させる。コードの変わるタイミングを確認させるために、まずはダウンストロークのみで合わせる。 4 リズムを変化させた奏法の例を示し、「曲の雰囲気を生かしつつ、弾き語りをかっこよくするにはどんなリズムで弾くのがよいかを、仲間と一緒に考えて練習しましょう」と伝え、練習させる。 【視点2】 <p>◇評価 弾き語りをする上で、楽曲の持つ雰囲気に合った器楽表現となるようにグループで話し合ったり合奏をしたりしながら、伴奏のリズムを工夫しているか。(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時は『Stand By Me』を中心にするが、『Dragon Night』の練習も同様に行っていよこととする。
	終結	<ol style="list-style-type: none"> 5 本時のまとめとして演奏する。 	<ol style="list-style-type: none"> 5 グループで考えたことやそれぞれ練習したことを生かして『Stand By Me』の弾き語りをさせる。ローテーションしながら全員一度ずつ演奏させ、本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いたことや考えたことを学習カードに記入させる。

<成果と課題>

本題材は、第一年次の表現（器楽）活動を発展させたものとしている。昨年度、生徒は長和音と短和音の仕組みについて学習し、ギターとキーボードでG・Em・D・Cの4つのコードの弾き方を練習しながら、『Take Me Home, Country Roads』(John Denver)の弾き語りに取り組んだ。今年度は引き続き4つのコードで演奏できる楽曲を教材とし、それぞれの楽曲の雰囲気を捉えてギターのリズムを変化させたりベースラインを足したりしながら、仲間と楽しく合奏することを目指した。

成果としては、昨年度の流れを汲んだことで、“ギターのコードを押さえる”という活動が円滑に進み、主活動である“リズムを工夫すること”に時間を確保することができた。また、同じコードを用いていても、進行が一定の楽曲（『Stand By Me』）とコードの動きが多い楽曲（『Dragon Night』）の2曲を教材としたことで、題材を通じて粘り強く取り組もうとする生徒の主体的な姿を見取ることができた。今後の課題としては、振り返りの入力を Google Form 等で行い、そのデータを次時の導入時に生かしたり、演奏時の動画撮影などを用いたりしながら、生徒自身が自己の変容を客観的に把握できるようにしたい。